雪の音（ゆきのおと）

Vol.125
平成27年10月15日発行

一般社団法人　建設コンサルタンツ協会　北陸支部

雪の音

CONTENTS　目 次　　2015 October Vol.125

巻頭言	今ががんばりどころ	国土交通省　北陸地方整備局長　藤山秀章	1
特　集	北陸新幹線（長野・金沢間）と 富山駅付近連続立体交差事業について	富山県　土木部　都市計画課	2
随　想	野良猫の住む街	水野　晶	6
寄稿文	古代越中国の国府と道路	高志の国文学館　主任・学芸員　大川原竜一	8
ちょっと気になるコーナー	戦後70周年 激戦地パプアニューギニアの今!	中越トラベル（朝日交通㈱観光部） 取締役支配人　山崎康裕	11
お知らせ	「業界展望を考える若手技術者の会 in 北陸」開催	技術部会 若手技術者ワーキンググループ	14
お知らせ	若手技術者ワーキンググループについて	技術部会 若手技術者ワーキンググループ	16
お知らせ	道路橋メンテナンス技術講習会報告（新潟会場） ～法定点検に必要なメンテナンス技術の習得のために～	技術部会　橋梁委員会	18
お知らせ	たのしく学ぼう ふるまち防災フェスタ	広報部会	22
お知らせ	親子で見学会 船に乗って信濃川の新たな発見と新潟の未来を想像してみよう!	広報部会	24
お知らせ	平成27年度 建設コンサルタンツ協会北陸支部 業務・研究発表会	技術部会　品質向上委員会	26
お知らせ	平成27年度 北陸支部防災訓練の結果 一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 北陸支部	総括部会・災害対策部会	30
お知らせ	平成27年度 道路・トンネル技術講習会 「道路の維持管理」「災害に強い道づくり」	技術部会　道路委員会・トンネル委員会	32
	北陸支部活動報告	事務局	34
	会員名簿 各部会・委員会委員名簿	事務局	40
	編集後記	猪俣孝之	

題　　字　元北陸地方建設局長
　　廣瀬　利雄　揮毫

表紙写真　ご存知 八方池から白馬三山を望む
撮 影 地　長野県北安曇郡白馬村
撮 影 者　猪俣　孝之

巻　頭　言

今ががんばりどころ

国土交通省　北陸地方整備局長
藤 山 秀 章

今、「地方創生（まち、ひと、しごと）」の戦略づくりが全国の自治体で行われている。地方からの人口の流出は、既に数十年前から始まっている問題であり、これをひっくり返す処方箋は見つかっていない。そう言う私も高校を卒業した後、地元を離れた人間なので、説得力は無いが、想定であった人口減少が現実となった。特に地方の経済と社会をしっかりと次世代に引き渡すには、三大都市圏への人口集中の流れを逆回転しなければならない。

どこに住むか。大学・就職口・遊ぶ所・買い物の場所、イベント…その絶対量とバリエーションの多さに、都会にあこがれ、高校生の何％かは「普通に」首都圏の大学へ行き、「普通に」就職しているということだろう。大企業や有名大学が首都圏に集積している限り、これを目指す流出は止められない。それに相当する数の逆移動がなければ、地方人口の社会減は続く。さまざまな調査や統計で、北陸は住みやすいという評価を受けている。戸建て住宅の比率が高い、一戸あたりの住宅面積が多い、三世代同居比率が高い、女性の有職率が高い等々。美味いものがある、美味い酒があるというのは、全国どこでもそう言われるだろうが、北陸では、どこに行っても自慢である。

一生の生活を考えた場合、生活環境において、地方都市は首都圏に負けてはいない。地方都市でなく、「町」でも、車で1時間走れば、最寄りの都市には行ける。「住みやすい」かもしれないが「住みたくはない」という人もいる。それは価値観の問題であり、価値観の大きな流れが変われば、逆回転は可能だと思っている。「えっ。まだ、東京で働こうと思っているの？」という言葉が若者の間で飛び交う状況をつくるのは、今が最後のチャンスかもしれない。

「失われた○○年」、一般にはバブル崩壊後のデフレの期間を示しているが、建設業界はだいたい15年。農林業はそれ以前からの長期間の衰退、製造業もグローバルな経済圏において価格競争で勝てない分野が衰退してきた。しかし、この数年、少しずつではあるが、生き残った企業、生き残った分野が息を吹き返し、新しい潮流を作り始めていると思っている。農業では、6次産業化、企業の参画や海外輸出増加の動きがある。林業でも若者の新規参入、間伐材のエネルギー利用など、新しい芽が出て来ている。製造業や素材産業では、オンリーワン技術で世界シェアを勝ち取る企業が増えている。地方の産業では、日本酒や伝統工芸などで、長い衰退から抜け出ようとする「逆回転」が見られる。今、地方創生の柱の一つとして、観光があげられるが、観光の目玉は、寺社仏閣、古い町並み、祭り、大自然、地方食と長い伝統を生き残ったものほど価値を認められている。

建設業界も、長期低落を抜け出し安定基調となり、新たな時代を迎えようとしている。様々な分野で、地方でも「職」はあるが人がいないという状況にある。「行きたくても、職がない」という状況ではない。「これからは、地方でしょ」という感覚が当たり前に思われるような「うねり」を様々なアプローチから作って行きたいものです。今ががんばりどころです。

北陸新幹線（長野・金沢間）と富山駅付近連続立体交差事業について

富山県　土木部　都市計画課

1. はじめに

平成27年3月14日、県民の長年の悲願である北陸新幹線（長野・金沢間）がついに開業しました。

北陸新幹線の開業によって、富山・東京間が最速２時間８分で結ばれ、輸送能力も約３倍に増加しました。

一方、富山駅においては、北陸新幹線の整備に併せて、在来線を高架化する富山駅付近連続立体交差事業を進めています。

本稿では、北陸新幹線（長野・金沢間）と、富山駅付近連続立体交差事業についてご紹介します。

2. 北陸新幹線について

（１）概要

北陸新幹線（長野・金沢間）は、長野市から金沢市に至る延長228kmの路線です。工事の施工延長は、長野車両基地から白山総合車両所に至る231kmです。

最高設計速度は260km/h、工事費は約１兆7,800億円となっています。

北陸新幹線位置図

（２）特徴

北陸新幹線（長野・金沢間）の主な特徴としては、

１）整備新幹線として初めて１つの開業区間がJR東日本とJR西日本の２つの営業主体により運営されること

２）複雑な地質構造を有する山岳地帯をトンネルで通過すること

３）有数の豪雪地帯である北陸地方を通過するため、様々な除雪・融雪対策を実施すること

４）東日本が50Hz、西日本が60Hzという交流電源商用周波数の異なる区間を走行するため、両方の周波数に対応可能な機器を開発、採用すること

などが挙げられます。このため、試験走行期間を長くとり、十分な性能確認が行われました。

（３）県内の新幹線駅

富山県内における新幹線駅は、黒部宇奈月温泉、富山駅、新高岡駅の３つです。各駅のデザインの概要についてご紹介します。

黒部宇奈月温泉駅は、「豊富な水を湛える黒部の自然が映り込んだ駅」がデザインテーマで、黒部の風や水、雲の流れ、立山の山並み等の自然を幾重にも重なる軽やかなウェーブラインで表現しています。基調色は峰々に残る雪の白であり、素材や色の変化によって立山の稜線の重なりや懐の深さを柔らかく表現しています。また、ホーム階からは立山連峰と日本海の風景をパノラマ的に一望することができます。

富山駅のデザインテーマは「静謐な雪にたたずむ木立の駅」であり、県木である立山杉の木立のたたずまいと雪のイメージを中心にデザインしています。ホームには雪の立山杉に見立てた独創的な形状の柱を採用しており、駅舎の外側からもガラス越しに見ることができます。

新高岡駅のデザインテーマは「飛越能の歴史を継承する駅」であり、国宝瑞龍寺の回廊や縦格子等をモチーフとしたズミカルな縦のラインを強調したデザインとなっています。なお、外壁は合掌造り、高岡銅器や能登の珠洲焼などを感じさせる色合いとなっています。

（４）関連する式典など

昨年、５月24日には富山駅でレール締結式が執り行われ、東京から金沢までの454kmのレールが一本に繋がりました。また、８月から10月にかけて、黒部宇奈月温泉駅～白山総合車両所間でも試験走行が開始され、県内３駅では新型車両の歓迎式典が行われるなど、県民に開業に向けた機運が高まりました。

そして、今年３月14日の開業日早朝、国土交通省、地元選出国会議員、知事、沿線の首長、地元経済界から、多くの関係者の出席のもと、開業式典が催されました。

また、引き続き、富山市内のホテルにおいてしゅん功祝賀会が、太田国土交通大臣をはじめ約900名の関係者の出席のもと、盛大に開催され開業を祝いました。

（５）開業後の状況

北陸新幹線の開業後の県内においては、

１）上越妙高～糸魚川間の「かがやき」「はくたか」の乗車人員が在来線特急の昨年度実績と比べ約３倍

２）宿泊予約サイトの夏季宿泊予約数が昨年度比91%（伸び率全国１位）

３）黒部宇奈月温泉駅沿線の宇奈月温泉の４～７月の宿泊者数が昨年度比約40%増

４）新高岡駅沿線の国宝瑞龍寺の４～７月の拝観者数昨年度比70%増

など、宿泊者数や観光地への入り込み等好調であり、新幹線の効果が大きく表われています。

富山駅　出発式

新幹線開業で賑わう富山駅

新高岡駅　314人テープカット

黒部宇奈月温泉駅　歓迎イベント

3. 富山駅付近連続立体交差事業について

（1）概要

次に、富山駅付近連続立体交差事業は、富山駅周辺の南北一体的なまちづくりと交差道路の渋滞解消のため、約1.8kmを高架化し、交差する道路の拡幅や新設を行うものです。

今年４月20日に、あいの風とやま鉄道線上り線とJR高山本線の高架切換を行いました。現在は、仮線上り線の撤去工事を進めており、引き続き下り線高架化工事に着手する予定です。

なお、高架化する鉄道は、JRから経営分離された「あいの風とやま鉄道」とJR高山本線、富山地方鉄道本線となっています。

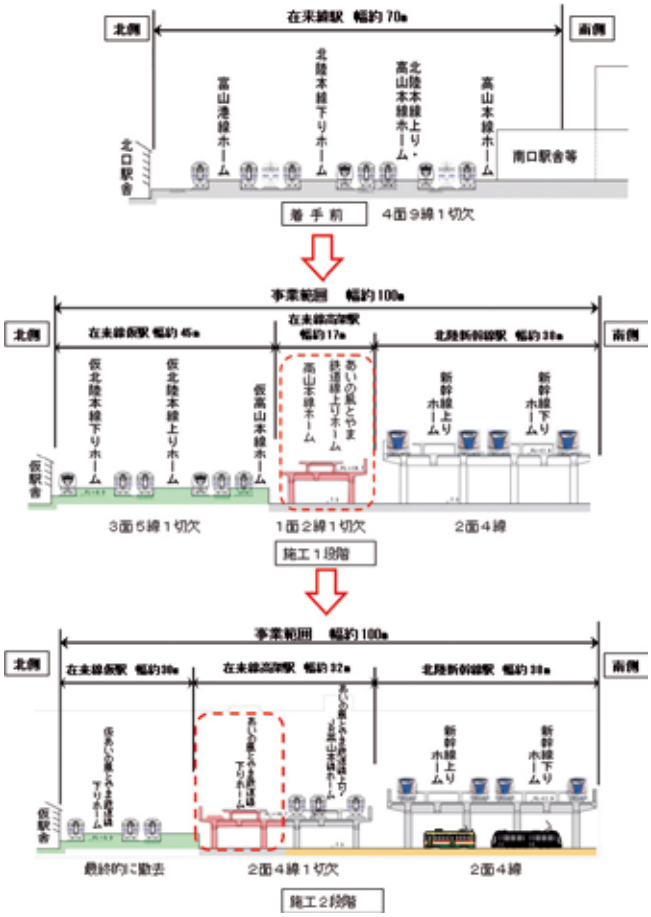
連続立体交差事業の進捗状況（H27.4）

（2）事業認可までの経緯

連続立体交差事業は、踏切を除却することが目的の一つであり、早くから立体交差化された富山駅付近では除却できる踏切がなく事業化できませんでした。しかし、平成12年に「大規模な改築予定のある既設の立体道路は踏切と見なす。」という採択要件の緩和があり、（都）牛島蜷川線などがこれに該当し、富山駅も連続立体交差事業による整備が可能となりました。

一方、平成13年４月に北陸新幹線の上越・富山間がフル規格での認可となり、富山駅まで整備が進められることになりました。

これらのことにより、北陸新幹線整備に併せて連続立体交差事業を行うことになり、平成17年に事業認可を得て事業を進めることになりました。



連続立体交差事業の施工手順

（3）北陸新幹線との同時施工

連続立体交差事業と新幹線建設事業を同時に行うことになったものの、富山駅付近は高層マンション等が建つ狭い空間であり、駅付近で幅約100mしか確保できませんでした。新幹線駅で幅約38m、在来線営業のための

富山駅部の標準断面図（完成形）

仮駅で幅約45mを確保した後は、連続立体交差事業で必要な幅約32mのうち約半分の幅約17mしか確保できませんでした。そのため、新幹線開業時までに上り線を施工し、その後、仮線上り線の撤去をしてそのスペースに下り線を施工する2段階施工となりました。

一方、同時に行うことにより、高架後の駅がコンパクトな駅（4面9線1切欠（幅約70m））→2面4線1切欠（幅約32m））となることや、在来線営業のための仮駅の移設を1回のみとすることで工事費を大幅に低減することができました。

また、新幹線駅と在来線駅の間には仕切壁を設けず、雪の立山杉をイメージした白色の一本柱やガラスファサードを設けた統一的なデザインとし、明るく開放的な一体感ある駅にできました。

4. 富山駅周辺整備事業について

富山市においては、駅前広場の整備や、駅南の富山地方鉄道の路面電車と日本初の本格的LRTである駅北の富山ライトレールを高架下で結ぶ「路面電車南北接続事業」を進めています。

富山駅舎

新幹線高架下の市内電車富山駅電停

新幹線開業時には、全国で初めて路面電車が新幹線の高架下まで引き込まれ、雪の多い北陸において、降雪時においてもスムーズな乗換えが可能となることから、2次交通利用者の利便性が大きく向上することとなりました。なお、新幹線開業の前日である、3月13日には開業式典が開催されました。

今後は、連続立体交差事業によって下り線が高架化された後に、路面電車の南北接続に向けた整備が進められます。

5. おわりに

富山県にとって北陸新幹線の開業は50年、100年に一度のビッグチャンスであり、県としては、官民一体となって、観光振興や交流人口の拡大、産業・地域の活性化など、開業効果を最大限に高めるための取組みを進め、今後の「とやま新時代」にふさわしい魅力あるふるさとの創生を目指しています。

富山駅では引き続き、連続立体交差事業を進め、県都にふさわしい魅力ある都市づくりを推進していきたいと考えています。

富山駅周辺の整備状況（H27.9）

在来線高架ホーム

随想　野良猫の住む街

水野　晶

今年の夏はひどく暑かった。エアコンを切ると、すぐに闇を圧迫するような湿気と熱気が寝室に充満する。息苦しいほどの暑さに耐えかねて、窓を開けて寝ることとなる。窓を開け放っても、コンクリートだらけの都会では涼風が駆け抜けるというようなことはなく、昼間の暑さをしっかりと蓄えたねっとりとした重い空気に、狭い寝室を占拠されるのが関の山なのだ。それでも、エアコンをつけっぱなしで眠ることに抵抗があり、「暑い」「暑い」とこぼしつつ眠れぬ夜を何とかやり過ごした。

朝方、浅い眠りの縁をさまよう頃、決まって猫の声が聞こえた。それも、明らかに子猫の声だった。か細く、それでいて媚びるような独特の子猫の鳴き声は、高く低くまるで歌うように、朝方の眠りを脅かすのだった。それは無機質な音ではなく、命あるものの何らかの意味ある声なので、否応なく意識の中に入り込む。外はまだ暗い。もう一度ぼんやりと膜が掛かったような意識を夢の底に沈めたいと切望するが、それは叶わない。薄い膜は鋭い爪で引っかかれるようにあっけなく破られる。太陽が昇る前の一番涼やかなつかの間の至福の時間はいつも子猫の声で奪われてしまうのだった。

数年前に、家の周辺で二匹の子猫が生まれ、我が家の庭で猫が子育てをしたことがあった。あれも、確か夏だった。狭い庭の伸び放題の樹木や下草の影に子猫がひっそりと隠れていたり、蜘蛛の巣を払おうと長い棒を持って裏に回ると、母猫に遭遇し凄い形相で威嚇されたりして驚いたものだ。こちらは害を加える気は毛頭ない。むしろ、小さな子猫の愛くるしさは見ていて飽きないものだった。人影に驚いて、慌てて動いて低い垣根に足を引っかけて転んだり、寝ているのかすぐ脇を通っても微動だにしない姿はユーモラスで何とも言えないものだった。

野良猫は我が家の庭で子育てしながらも、人に馴染むということがなかった。私はいつも母猫にとって、攻撃すべき敵であった。出会えば、歯をむき出し「シャー」と威嚇される。仕方なく、私は一夏窓から彼らを観察して過ごした。母猫は夕方狩りから帰ってくると、独特の声で鳴く。すると、どこからか子猫たちが現れ、お乳をもらうのだ。子猫たちだけで留守番をしている時もあるが、子猫もまた母猫同様警戒心を解くことはなかった。自分の家でありながら、私は彼らを驚かせないように、出入りには細心の注意を払った。

家の周辺は猫がとても多い。公園には首輪の付いた飼い猫から野良猫までいろいろな猫が集まる。近所に野良猫に餌をあげている家があるので、どうやら、我が家は公園から餌場に向かう通り道のようだ。更に、庭にある睡蓮鉢は彼らの水飲み場で、夜間に出入りするときなど、大きな猫が水を飲んでいたりして驚かされることもしばしばある。闇の中で、体を伸ばして睡蓮鉢に覆い被さるようにして水を飲む黒い影は、まるで見たことのない猛獣のように見えて本当にぎょっとする。

猫より犬。絶対、犬派だと思ってきたが、野性の血を残した媚びない猫も、なかなか魅力的だ。音もなくしなやかに高い塀に飛び乗る姿や細い塀の上を優雅に歩く姿は美しい。また、獲物にゆっくり忍び寄り、狙いをつける姿は卓越したしたたかな狩人そのものだ。そして、子猫は総じて輝く大きな丸い目と大きな耳を持ち、ことのほかかわいい。猫

のブログへのアクセス数が高いのもうなずける。猫カフェも登場し、猫のいる街も観光客に人気があるそうだ。

だが、新潟市では猫の糞尿被害や、作物を荒らすという理由で無責任に野良猫に餌をあげるのをやめるよう市民に呼びかけている。繁殖させないために、雌猫の不妊手術のための助成金も出している。飼い猫の寿命は犬より長いと聞くが、野良猫は極端に短く三〜四年であるという。カラスが子猫を襲うという話も耳にする。以前は、五〜六匹くらいの子猫を引き連れて歩く姿をよく見かけたが、最近は野良猫の世界でも少子化だ。一匹か二匹しか連れていないことも多い。都市部では生まれても育たないのかもしれない。

自由に生きる猫を見るのは楽しいが、その命に責任が持てるのかと問われれば、簡単にできるとは言えまい。安易に餌を与えることは問題があるのかもしれない。ただ、生まれてきた小さな命は、愛さずにはいられない。つい、餌を与えてしまう愛猫家の気持ちもまた理解できる気がする。

さて、夏中、夜な夜な悩ましく鳴き、安眠を妨害した主と対面する日が来た。ある朝、ベッドに寝転んで朝刊を読んでいた時、明け放れた窓の向こうに何か動くものがあった。気のせいだと思ったが、何だか視線を感じる。驚いて飛び起きると、窓の向こうにそびえ立つ隣家の車庫の上で、親子猫がじっとこちらを見ている。私も網戸に鼻をくっつけんばかりに近寄るが、猫たちは逃げない。むしろ、好奇心にあふれた四つの目が、身を乗り出しこちらを見ている。ああ、この子が鳴いていたのかと思った。母親似の三毛猫だった。

秋は初夏生まれの猫の親離れの季節だ。雌猫は母親と一緒に行動することもあるが、雄猫は母親とテリトリーを別にするのだという。秋風が吹く頃、いつの間にか子猫の鳴き声は聞かれなくなった。過酷な暑い夏を乗り越えた猫たちも、しばし過ごしやすい季節を楽しむことだろう。新潟の秋は短い。すぐに木枯らし吹きすさぶ季節に変わっていく。数年前、我が家で子育てを終えた母猫の姿も久しく見ていない。夏を乗り越えた野良猫たちのうち、どのくらいが冬を乗り越えられるのだろうか。

もう、窓を開け放して寝る必要はなくなった。子猫は大人になり、独特の声で鳴くことはなくなり、安らかで深い眠りが再び訪れた。庭の睡蓮鉢は何年も花を付けなくなっていて、家人から蚊の温床になるから始末するように毎年言われていた。今年の夏の終わりに、ついに鉢の水を空けた。腐敗した泥の臭いが数日庭に漂っていた。睡蓮の伸びた細い根が絡み合った様は人の頭髪のようで、水を切って捨てる間、目にするたびに嫌な気持ちになった。野良猫のための水飲み場として残しておくべきだったのだろうか、と幾度も後悔の念に襲われた。

もう、猫の水飲み場もなくなってしまい、気のせいか我が家の庭を通る猫の姿も少なくなったような気がする。秋は実り豊かな季節なのに、いつもどこか寂しい季節だと感じてしまう。

プロフィール　水野　晶

1958年　新潟市生まれ
1987年　文芸たかだ井東汎賞受賞
1991年　新潟日報文学賞受賞
1993年　松岡譲文学賞受賞
2013年　にいがた市民文学賞受賞

古代越中国の国府と道路

高志の国文学館　主任・学芸員　大川原　竜一

現代の公共事業、とくに土木事業は、産業や交通の基盤を整えるとともに、それによって支えられる社会・経済活動の発展に大きく貢献してきたと言えます。近年、公共事業のあり方とその方向性について、国民の関心が高まり、ひろく議論がなされていますが、国家が全国規模で統一的に土木事業をおこなった例は、現代のみに限りません。

日本の古代国家は、法律によって行政や税制を整備し、全国を統治するために、各国に国府という役所を設置しました。さらに、畿内（現在の近畿地方）をのぞいた地方の国々を、東海道・東山道・北陸道・山陰道・山陽道・南海道・西海道という七つの地域に編成し、列島各地には都と地方を最短距離でむすぶ直線的道路（駅路）を作りました。このように、官舎の建設と交通網の整備、すなわち日本列島におけるインフラ整備は、古代国家が目指した中央集権体制の確立に不可欠な要素であったと言えます。

ここでは、現在の富山県にあたる古代の越中国と、国府の建設および道路の整備について、すこし述べてみます。

1. 大伴家持の赴任と越中国府

『万葉集』の編者といわれる大伴家持は、天平18（746）年6月に天皇の命を受け、越中守に任命されました。【写真1】越中守とは、越中国を治めた国司の長官の名称であり、家持はこの時29歳でした。奈良時代の歴史書である『続日本紀』には、同年6月21日の記事に「従五位下大伴宿禰家持を越中守となす。」とあります。さらに、『万葉集』には、「大伴宿禰家持、天平十八年、閏七月をもちて越中国の守に任ぜらる。すなはち七月をとりて任所に赴く。」とあり、翌7月には奈良の都（平城京）から任地の越中へ赴いたようです。

家持が任ぜられた国守は、一国内の行政全般をつかさどる権限をもっていました。国守の役目は、国内各地をまわって収穫の様子を視察し、人々の生活をみて産業を振興したり、犯罪を取りしまったりすることで、家持もこれに精力的に励んでいたことが、当時の史料からうかがえます。

写真1　二上山に建つ大伴家持銅像

ところで、家持が政務をとった越中の国府は、現在の高岡市北部の伏木地区に「古国府」「古府」という地名があることから、ふるくから小矢部川河口部左岸の伏木台地上にあったと推定されてきました。伏木台地は、小矢部川・庄川の河口部および日本海に接しています。段丘上は標高約11～25メートルに広がり、その西側には標高273メートルの二上山が所在しています。【写真2】

写真2　高岡市伏木地区
（写真提供：高岡市教育委員会）

越中国府の発掘調査は、戦前からはじまり、その後、富山県教育委員会や高岡市教育委員会、富山県考古学会により行われてきました。現在では、越中国府および越中国分寺跡・国分尼寺跡を中心とする遺跡を、「越中国府関連遺跡」と呼称し、発掘調査が継続して行われています。

ところが、越中国府であると確実に断定できる遺跡は、現在のところみつかっていません。ただし伏木台地上では大型の建物跡が確認されており、【写真３】古代の土器や瓦のほかに、硯や陶器などの当時の役人が用いたと思われる遺物もみつかっているのです。

写真３　越中国府関連遺跡の発掘調査
（写真提供：高岡市教育委員会）

また、越中国府の周辺には、国司たちの住居（館）があったことが古代の史料からわかります。『万葉集』によれば、その館のなかには、川をのぞむ場所に建っていたものもありました。伏木台地上には、「東館」「串ヶ館」「岸ヶ館」など、施設の存在をうかがわせる地名が確認されており、興味深いものがあります。

全国の発掘事例をもとに考えますと、国府には、行政の場である庁舎や部署、また倉庫群が並び立っていたとみられています。伏木台地では戦後宅地開発が進み、それにあわせて現在まで約100地点におよぶ発掘調査が行われ、古代の景観がわかりつつあります。家持が政務をとった越中国府の姿は、今後の調査の進展に負うところが大きく、その成果が待たれます。

２．大伴家持の往来と越中国の道路

家持が越中に赴く際には、駅路とよばれる道路を通ったと考えられています。

古代国家は、およそ30里（約16キロメートル）ごとに駅家とよばれる施設を駅路上に設置し、そこには馬と人夫を備え、緊急連絡や中央からの命令文書の伝達に用いました。また、駅路は中央からの使者の往来にも利用されたことが知られています。

平城京と越中国をむすぶ駅路は、琵琶湖の西岸を北上し、越前国において、能登へむかう道と、越中国をへて越後国へいたる道に分岐したとみなされています。

越中国内の駅路のルートについて、その東半分においてはおおむね日本海沿岸を進んだと考えられています。【下図】

図　古代越中国の駅路
（出典：『日本古代道路事典』）

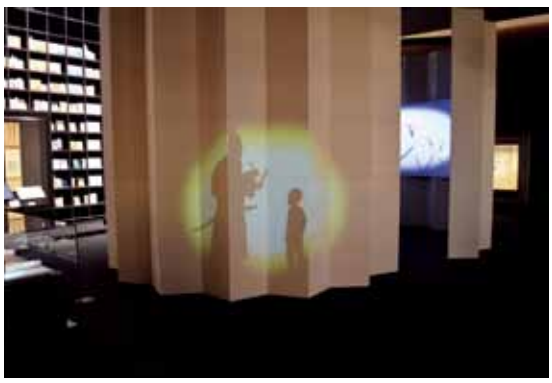
一方、越前国との国境から越中国府にいたる西半分に関しては、これまでいくつかの説が出されてきました。しかしながら近年の踏査により倶利伽羅峠において幅約６～７メートルの古代道路の痕跡がみつかったことから、そのルートは、石川県津幡町から小矢部市の南西部へとぬけて越中国に入ったものとみなされています。家持が天平19（747）年５月に上京する際に、部下の大伴池主が詠んだ長歌の一節に「礪波山　手向の神に　幣奉り　我が乞ひ禱まく」とあります。この礪波山とは倶利伽羅峠を指し、池主は峠の神に家持の旅の安全を祈っていたことがわかります。奈良時代の越中国の駅路は倶利伽羅峠越えの道をとっていた可能性が高いようです。倶利伽羅峠は、寿永２（1183）年の木曾義仲の「火牛の計」で知られる源平合戦の古戦場として名高い場所です。

さらに、小矢部市南西部からは、近年の発掘調査により直線的な古道の跡がいくつか発見されています。小矢部市の桜町遺跡では、路面幅約5.5～6メートルで側溝を両側に備えている道路が約90メートルにわたって確認されています。また、高岡市の麻生谷新生園遺跡では、奈良時代の幅6.5メートルの道路跡と、平安時代の幅4.5メートルの石敷きの道路跡がみつかっています。これらが古代の駅路を示すとすると、それは、現在の県道32号線に並行するように、富山県の西端を斜行する西山丘陵の山裾と小矢部川左岸との間を北上し、二上山山麓をへて伏木台地上の国府にいたったものと考えられます。全国の傾向と同様に、越中国においても国府にむかう直線的な道路は、できるだけ最短ルートをとるように敷設されていたことが指摘できるのです。ただし越中国府周辺では、古代の道路跡はみつかっておらず、どのように国府までいたったのか不明な点が残されています。今後の課題です。

ところで、越中国府周辺からは、東へと進んで小矢部川を渡り、『万葉集』に「奈呉浦（奈呉海）」と詠まれた放生津潟の南側を大きく迂回するルートが想定されています。しかしながら最近、北陸新幹線の建設工事に先立って行われた発掘調査により、射水市に所在する赤井南遺跡において、県内で発掘された道路遺構の路面幅としては最大級の古代道路跡が発見されました。【写真4】当遺跡は、従来の駅路の推定ルートよりも南に位置しており、そのルートの比定に一石を投じています。

写真4　赤井南遺跡出土の古代道路跡
（写真提供：富山県埋蔵文化財センター）

現代の高速道路の路線が、古代の駅路の通過位置に近似していることはつとに言われてきましたが、新幹線の建設が古代道路の調査研究に資した点は大きいです。今後の発掘成果により、さらに古代越中国の駅路の実態が明らかになっていくことを期待したいと思います。



高志の国文学館

高志の国文学館は、旧知事公館を改修・増築し、平成24（2012）年に開館した富山県内初の公立文学館です。万葉歌人・大伴家持の越中万葉から現代の小説、漫画、アニメにいたるまで、最新のデジタル機器を使った展示で幅広く紹介しています。緑豊かな庭園を眺めながら読書ができる「ライブラリーコーナー」は、無料でご利用いただけます。また、館内には人気シェフ　落合務氏がてがけるイタリアンレストランがあります。

所　在　地／富山県富山市舟橋南町2-22
富山駅南口から徒歩15分、市内電車「県庁前」下車徒歩5分。
TEL 076-431-5492
URL http://www.koshibun.jp/
開館時間／9：30～17：00
休　館　日／火曜日・祝日の翌日・年末年始

ちょっと
気になる
コーナー

戦後70周年 激戦地 パプアニューギニアの今!

中越トラベル（朝日交通㈱観光部）　取締役支配人　山崎康裕

戦後70年を迎え、再び戦争が起こらない事を祈願致します。

新潟県出身の太平洋戦争（大東亜戦争）で最も有名な軍人は、連合艦隊司令長官 山本五十六元帥です。

山本五十六元帥が新潟県出身である事も同郷として誇りに思うと共に、有能な管理者として尊敬しております。有名な名言**「やってみせ、言って聞かせて、させてみて、ほめてやらねば、人は動かじ。」**と、現在でも通じる「人の動かし方」を説いたものです。そこで今回は、山本五十六元帥の終焉の地である「パプアニューギニア」をご紹介させて頂きます。

パプアニューギニアの概要

南半球の赤道付近で、オーストラリアから北東160キロに位置し、ニューギニア島の東半分と600以上の島々から成り立っています。

パプアニューギニアの部族は800以上とも言われ、個々の言語が存在します。公用語は英語ですが、ピジン語なども多く使われています。

国土は、ジャングルに覆われた土地や4,000メートル級の山（オーエン・スタンリー山脈）、手つかずのサンゴ礁、火山群、大きな川（セピック川）など自然豊かです。

気候は、熱帯気候で高温多湿で雨季と乾季がはっきりしています。12月から3月が雨季にあたりますが、ソロモン湾側のラエから首都ポートモレスビーは、4月から9月が雨季となります。

ゴロカのマッドマン

パプアニューギニアの子供達

お面をとるといいおじいさん

ゴロカショー

ゴロカのコーヒー工場

観　光

パプアニューギニアは自然の宝庫です。散策や洞窟探検、トレッキング、カヌー、フィッシングなどアクティビティを楽しめます。また、世界でも有数のダイビングスポットで、多くのダイバーの憧れの場所です。世界遺産に登録されている「パプアニューギニアのクックの農業遺跡」も一見の価値があります。

観光での服装は、半袖半ズボンというカジュアルな服装が一般的です。気温が高く、日差しも強いので、帽子、サングラス、日焼け止め、多めのミネラルウォーターを準備することをお忘れなく。街中には、ドレスコードのあるレストランもありますのでご注意を…。

河川の近くやブッシュが生えている場所は、マラリア蚊に注意が必要です。マラリア予防のため、長袖、長ズボン、丈夫なウォーキングシューズが必要な地域もあります。私も以前、ボランティアでラエから船に乗り、川をさかのぼった場所（移動に1泊2日間かかります。）にある小学校を訪問したことがありますが、出発前にマラリアの予防薬を医師に処方してもらってから行きました。旅行は、万が一に備えることが大切です。

日本からパプアニューギニアへ行くには、成田空港発の直行便が毎週土曜日就航しております。約6時間30分のフライト時間で首都ポートモレスビーに到着致します。

各地を訪れるには、インフラ整備が整っていないため、航空機または船舶をお勧め致します。大きな町は、問題ありませんが、街を外れると道路が舗装されてない場所も多く、途中で道が無くなることもあります。

最後に冒頭で述べた、山本五十六元帥が最後に過ごした「ラバウル」は、日本人にも馴染みのある地名で、ポートモレスビーから航空機で約1時間30分の位置にあるニューブリテン島の北に位置し、火山島で、温泉が湧きあがる海岸もあります。私も訪ねた事がありますが海水と温水を混ぜて温度調整をするのですが一苦労致しました。

このラバウルをはじめとしてパプアニューギニア全土に戦争の遺物が多く眠っています。その他にも熱帯の動植物、パプアニューギニアの部族の踊り（シンシンダンス）、などお楽しみいただけます。機会がありましたら、一度お訪ねください。

ビルビル村のシンシン

ビルビル村のシンシンダンス

ニューギニア航空機とシンシン

ビルビル村の高床式住居（生活しています）

ラバウル

ラバウル旧市街

ラバウル展望台からの眺め

旧市街地のマーケット

ラバウル地区のお祭り

ハーゲンショー

ラバウルの山本バンカー

入口に錨のマーク

山本バンカー全体

パプアニューギニアの動植物

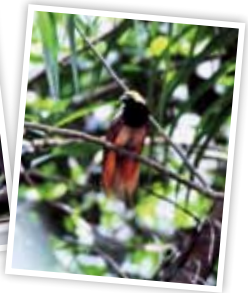
ハイビスカスの一種

カンムリバト

ランの一種

フルーツコウモリ（スープにして食べます）

木登りカンガルー



パプアニューギニアの国鳥「極楽鳥」

ランの一種

フルーツコウモリが集まるガジュマルの木

【写真提供】　日本パプアニューギニア協会　事務局長　島田謙三（元ニューギニア航空日本支社長・日本ビジネスライン㈱代表取締役）

お知らせ

「業界展望を考える若手技術者の会 in 北陸」開催

〈技術部会　若手技術者ワーキンググループ〉

1. はじめに

『業界展望を考える若手技術者の会』（以下、若手会）は、全国の若手技術者が一同に会し、業界の諸問題や将来像、改善行動について議論を交わす場として、建設コンサルタンツ協会総務委員会により設置されました。本会は、月1回の頻度で開催されていますが、この度、北陸で開催することとなったため、北陸支部若手技術者ワーキンググループから若手会に参加しているメンバーが主体となって企画・運営しました。

2. プログラム

『業界展望を考える若手技術者の会 in 北陸』は、平成27年8月28日（金）～29日（土）の2日間において、石川県金沢市のITビジネスプラザ武蔵、石川四高記念文化交流館で開催しました。内容は、下記のとおり3部構成とし、1部及び3部は、若手会のメンバーでのグループ討議、2部は、地元若手技術者や大学生を交えた意見交換会としました。

■1部　グループ討議

①近畿支部の活動報告
②建コン将来ビジョンに関するグループワーク
③グループ発表
④全体討議

■2部　建コン ワールドカフェ in KANAZAWA ～みんなの「しごと観」と建コンの未来～

（1）話題提供

①北陸地方整備局による技術者育成支援の取組
　北陸地方整備局企画課　杉本　敦　氏
②業界展望を考える若手技術者の会について
　㈱オリエンタルコンサルタンツ　伊藤　昌明
③建コン北陸支部での技術者育成支援の取組
　開発技建㈱　竹内　聡
④建コン企業が実施する公民連携事例の紹介
　㈱日本海コンサルタント　片岸　将広

杉本さんによる講演の様子

片岸委員による公民連携事例の紹介の様子

（2）ワールドカフェによる意見交換

①ワールドカフェの概要説明（片岸）
②テーマ1に関する対話：
　「今の仕事や働き方をどのように感じていますか？」
③テーマ2に関する対話：
　「みんなに羨ましいと思われる建コンの姿とは？」
④印象に残ったことの書き出しと全体共有

■3部　総括グループ討議

3. 開催概要

1部及び3部は、若手会のメンバーがこれまで取り組んできた業界の諸問題や将来像、改善行動について継続して議論を交わしました。

2部は、若手会メンバー17名に加え、近畿支部2名、金沢市で働く若手技術者28名、大学生7名の総勢54名の参加があり、話題提供を挟み、参加者全員で意見交換しました。この意見交換は、活発な意見を促すためワールドカフェ形式としました。今回は、この2部の概要について紹介します。

3-1. 話題提供

まずは、話題提供として、北陸地方整備局企画課　杉本さんより、北陸地方整備局による北陸若手技術者育成支援検討会での取り組みや技術者育成支援の取組「応募競争における若手技術者のヒアリング同席」や、業務改善の取組「水曜ノー残業ディなど受発注社間の一週間のルールを定めたウィークリースタンス」などの業務での取り組みと工事での取り組みを紹介いただきました。

また、若手会より竹内が「担い手確保を目的とした建コンPRビデオ」、片岸が「建コン企業が実施する公民連携事業（金沢市公共レンタサイクル「まちのり」）」について紹介しました。

3-2. ワールドカフェによる意見交換

話題提供の後は、参加者全員で2つのテーマについて意見交換を行いました。

1つ目のテーマは、「今の仕事や働き方をどのように感じていますか?」、2つ目のテーマは「みんなに羨ましいと思われる建コンの姿とは?」でした。意見交換は、1回15～20分の対話を、メンバーを入れ替えながら計5回行いました。ワールドカフェ形式という、お茶を飲みながらリラックスしての気軽なスタイルは、活発な意見交換を生み、参加者からは、「とても楽しいので、もっと意見交換の時間がほしい!」との要望も出ました。出された建コンに対する意見のうち、参加者各自が印象に残ったことを整理し、それを書き出しました。その一部を以下に紹介します。

【テーマ1】 今の仕事や働き方をどのように感じていますか?

・地域を守り創るために働く
・もう少し残業が少なく働きたい
・案外、建コンが好きな人が多い　等

【テーマ2】みんなに羨ましいと思われる建コンの姿とは?

・建コンの知名度を上げる
・女性も働きやすい環境
・人々に覚えてもらう仕事にする
・クライアントの幅を広げる
・広告代理店にようにハイセンスな仕事する
・発注者と受注者がチームを組んで仕事をする
・既に羨ましがられる魅力ある職種である　等

ワールドカフェの様子

参加いただいた杉本さんからは、「皆さんの活発な意見交換の様子を見ていると建コンの未来は明るい」等の総評を得ました。

今後は、各支部での開催も視野に入れ、交流を活発化させていく予定です。

4. 今後の展開（おわりに）

『業界展望を考える若手技術者の会 in 北陸』は、好評のうち終了することができました。ご協力いただいた北陸地方整備局企画課杉本さんをはじめ関係各位に対し、感謝の意をここに評します。

集合写真

お知らせ

若手技術者ワーキンググループについて

〈技術部会　若手技術者ワーキンググループ〉

1. はじめに

若手技術者ワーキンググループは、北陸地方整備局が主催する若手技術者の確保・育成等を目的とした「北陸若手技術者育成支援検討会」へ建設コンサルタンツ協会北陸支部として意見を提言するため、平成25年9月に組織されました。

その後、グループの活動を拡大・継続してきたことから、平成27年度より技術部会の一組織となりましたので、ここに報告します。

2. メンバー構成

若手技術者ワーキンググループは、その名のとおり、会員各社の40歳以下を中心に、全12名の委員で構成された組織です。

■①竹内　　聡　開発技建（株）
□②片岸　将広　（株）日本海コンサルタント
③七郎丸一孝　（株）国土開発センター
④伊藤裕章大　日本コンサルタント（株）
⑤松尾　内助　（株）キタック
⑥新郷　恭弘　エヌシーイー（株）
⑦山田　知広　（株）建成コンサルタント
⑧榊原　　稔　（株）建設技術研究所
⑨福崎　正和　（株）構造技研新潟
⑩青木　隆幸　相互技術（株）
⑪佐藤　洋子　（株）構造技研新潟（平成27年4月より新任）
⑫佐藤　　恵　相互技術（株）（平成27年4月より新任）

■リーダー　□サブリーダー

3. これまでの活動内容

3-1. 北陸若手技術者育成支援検討会への提言

これまで、若手技術者ワーキンググループで取り組んできた活動の一つとして、北陸地方整備局が主催する「北陸若手技術者育成支援検討会」への提言があります。

この検討会は、建設業界における若者の参入減や離職が潜在化していることから、若手技術者の確保（参入増加）・育成（離職防止）を目指し、建設コンサルタントをはじめとする建設業の各業種から出された課題、改善策を踏まえ、やりがいある労働環境を検討するものです。

若手技術者ワーキンググループでは、この検討会に課題、改善策を提言するため、グループ会議を開催しました。この会議は、高田一博運営委員長に総括していただきました。なお、会議を通じて委員より出された主な意見は下記のとおりでした。

①長時間労働が課題である。金曜日に翌月曜日提出の指示を出すなど、暗に休日出勤を強要する例もある。発注側の意識改革が必要である。
②一級建築士などに比べ、名誉・賃金ともに低い（と感じる）。業務及び技術者表彰の拡大により高揚を図るほか、有資格者へのインセンティブが必要である。
③認知度が低く、イメージも良いとはいえない。広く一般にPRしていく必要がある。

支部での会議の様子

北陸若手技術者育成支援検討会の様子

こうした意見を「北陸若手技術者育成支援検討会」に提言し、検討会では、発注側の意識改革策として「ウィークリースタンス」立案されました。この取り組みは、主に下記を行うものです。

①月曜日：発注者は、指示期限日としない。
②水曜日：受発注ともに、定時帰宅に心がける。
③金曜日：発注者は、指示日としない。

「ウィークリースタンス」は、平成26年度より試行し、一定の効果が認められたことから、今後本格実施となる見通しです。その他の提言については、引き続き検討していくとのことで、検討会を終えました。

3－2. 建コンPRビデオ「教えて！ケンコンさん」の製作

若手技術者ワーキングのもう一つの取り組みが、高校生等をターゲットとした建設コンサルタントPRビデオの製作です。この取り組みは、横山徹成技術部会長（当時）に総括していただきました。

若手技術者ワーキングでは、この動画製作にあたり、「アイディアを出し、ストーリーを考え、素材を集め、動画を試作し、支部役員などの意見を踏まえ動画を微修正する」というトライアルを繰り返し、ようやく完成しました。

また、完成した動画を多くの人から閲覧してもらうため、動画サイトYouTubeに公式チャンネルを立ち上げ、広く公開しました。

建コンPRビデオの一部シーン

4. 今後の展開（おわりに）

若手技術者ワーキンググループは、先に述べたとおり、平成27年度より技術部会の一組織となりました。

今後は、これまで行ってきた独自の取り組みに加え、技術部会を横断的に支援（講演会などのイベント支援など）する取り組みも行っていきたいと考えています。

YouTube 教えて！ケンコンさん で検索！

https://www.youtube.com/channel/UCAmrZYDEZ5NXZA7YD-1tsOg

お知らせ

道路橋メンテナンス技術講習会報告（新潟会場）
～法定点検に必要なメンテナンス技術の習得のために～

〈技術部会　橋梁委員会〉

1. はじめに

全国建設研修センター及び建設コンサルタンツ協会が実施するサテライト講習会はCPDプログラムの一つであり、建設コンサルタンツ会社並びに土木施工会社の「道路橋の法定点検に必要なメンテナンス技術の習得」を目的として開催されました。本講習会は、東京で行われる講義を、インターネット回線を利用して地方のサテライト会場で同時に受講できる特徴があります。また、最終日には現場実習が行われ、実橋を用いて点検の体験と定期点検表の記載の仕方と細かい指導が行われました。【参加者：700名（全国）50名（新潟会場）】

2. 技術講習会の概要

講義日時		時間	教科目	講師
6月2日（火）	12：30～13：10		受付	一般財団法人 全国建設研修センター
	13：10～13：20		講師についての説明	
	13：20～14：20	1.0	道路構造令をめぐる今日的課題と今後の方針	国土交通省 道路局 国道・防災課 道路保全企画室 室長 福田敬大
	14：30～15：30	1.0	点検に関する法令及び技術基準の体系	国道技術脊索総合研究所 道路構造物研究部 橋梁研究室 室長 玉越隆史
	15：40～17：10	1.5	橋の構造の基本	国道技術脊索総合研究所 道路構造物研究部 橋梁研究室 室長 玉越隆史
6月3日（水）	8：30～9：00		受付	一般財団法人 全国建設研修センター
	9：00～12：00	3.0	コンクリート部材の損傷と診断	国立研究開発法人 土木研究所 構造物メンテナンス研究センター 上席研究員 石田雅博
	12：00～13：00	昼休		
	13：00～16：00	3.0	鋼部材の損傷と診断	国立研究開発法人 土木研究所 構造物メンテナンス研究センター 上席研究員 村越 潤
	16：10～17：10	1.0	下部構造の損傷と診断	国立研究開発法人 土木研究所 構造物メンテナンス研究センター 上席研究員 七澤利明
6月4日（木）	8：30～9：00		受付	一般財団法人 全国建設研修センター
	9：00～10：00	1.0	支承・付属物等の損傷と診断	国土技術政策総合研究所 道路構造物研究部 構造・基礎研究室 主任研究官 西田秀明
	10：10～11：40	1.5	定期点検の実施と記録	国土技術政策総合研究所 道路構造物研究部 橋梁研究室 主任研究官 白戸真大
	11：40～12：40	昼休		
	12：40～13：40	1.0	付属物の定期点検要領概論	国土技術政策総合研究所 道路構造物研究部 橋梁研究室 主任研究官 白戸真大
	13：50～14：50	1.0	土工構造物の構造の基本	国土技術政策総合研究所 道路構造物研究部 構造・基礎研究室 室長 間淵利明
	15：00～16：30	1.5	シェッド・大型カルバート等の定期点検要領概論	国土技術政策総合研究所 道路構造物研究部 構造・基礎研究室 室長 間淵利明
	16：40～17：30		現場実習事前説明	一般社団法人 建設コンサルタンツ協会
6月5日（金）	9：30～12：00	3.0	現場実習 （阿賀野川大橋）	一般社団法人 建設コンサルタンツ協会

3. 講義内容

講義内容の抜粋を以下に示します。

（1）道路構造物の維持管理に係る課題と老朽化対策
講師　国土交通省　道路局　国道・防災課
道路保全企画室
福田敬太　氏

1）道路の維持管理・道路ストック状況について

平成25年時点で約70万橋もの道路橋（橋長2m以上）が全国に存在している。このうち、全体の4割以上が、平成35年頃には建設後50年を超えるものとなる。損傷を見落とした事により、経年劣化が進行し橋の機能に影響を及ぼした事例も少なくない。経年劣化に対して、効率的な維持管理、適切な補修・補強を進めていく必要がある。

２）老朽化対策の課題

①予算不足

10年間で、直轄道路事業費は約３割減少しており、維持修繕費は、本来ならば増やすべきところ、約２割減少している。しかし、地方公共団体が橋梁の点検、長寿命化計画策定及び修繕を進める上で国に求める支援として、「財政的支援」を挙げた市町村は約９割に上る。また、老朽化構造物への対応に追われ新規投資が困難になるとの懸念を示している市町村は約７割となっている。

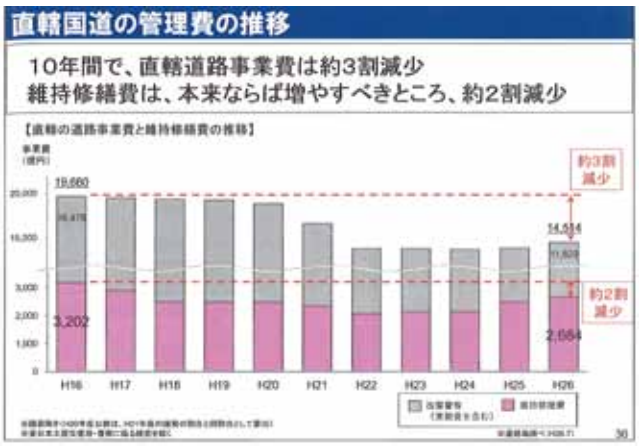


図１　直轄国道の管理費の推移

②橋梁点検技術者の不足と点検技術の課題

日本では、全橋梁約70万橋のうち約75%が市町村道である。しかし、地方公共団体の技術者の現状は厳しく、町の約３割、村の約６割で橋梁保全業務に携わっている土木技術者が存在しない。

地方公共団体の橋梁点検要領では、遠望目視による点検が約８割を占め、点検の質にも課題が残る。

③修繕工事の入札契約に係る課題

修繕工事は、新設工事と比べ手間がかかり、人件費や機材のコストも割高になる場合があり、発注ロットが小さいため利益が出にくい。橋梁等の修繕は、施工の段階で設計と実態が異なり、再設計や契約変更が必要になることが多い。

３）国土交通省の取り組み

平成24年に起こった笹子トンネル天井板落下事故を受け、平成25年を「メンテナンス元年」と位置づけ、急遽、緊急点検・集中点検を実施し第三者被害の観点からの最低限の安全性を確認した。また、道路メンテナンス総力戦として産学官のリソース（予算・人材・技術）の全てを投入し、総力を挙げて本格的なメンテナンスサイクルを始動している。

メンテナンスサイクルを確定（義務）させるため、橋梁、トンネル等は、国が定める統一的な基準により、５年に一度、近接目視による全数監視実施を義務付け、主な変状の着目箇所、判定事例写真集等を加えた定期点検要領を通知した。

これから、メンテナンスサイクルを回していく中で、地方公共団体の取り組み状況を踏まえつつ、点検基準や支援策の見直し等を含めた対応について引き続き検討することが必要である。

（２）点検に関する法令及び技術基準の体系

講師　国土技術政策総合研究所　道路構造物研究部
橋梁研究室　室長　玉越隆史

１）維持管理における技術基準の体系

点検方法は４つの条件が少なくとも満たされるものでなければならない。

・必要な知識と技能を有するものによること
・５年に一度の頻度で行われること
・近接目視によること
・健全性の診断を行うこと

平成26年度に策定された道路橋定期点検要領は、道路法の施行規則第４条の５の２の既定に基づいて行う点検について最小限の方法、記録方法を具体的に記したものであり、各項目について考え方や留意点を補足したものである。「一般的な構造と主な着目点」、「判定手引き」が付録として添付されている。

健全性の診断結果の分類に関しても告示されており、これにより道路橋だけでなくトンネル等全ての構造物に共通な分類であり路線や地域などのマクロ的な状態把握が可能。

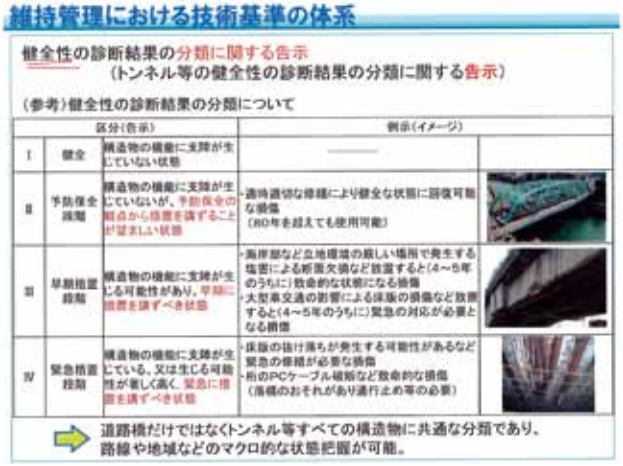


図２　健全性の診断結果の分類について

２）点検方法

現場に行く以上は、国総研資料No.748「道路橋の定期点検に関する参考資料」に目を通しておいてほしい。

定期点検には道路橋や損傷に関する広範な知識が求められる。外観目視が主体となることから目視できない箇所の有無の推測や、専門家の判断を必要とする事象に対して、安易に見過ごしたり誤った判断を行うことがないよう常に留意しつつ、定期点検を実施するのがよい。

道路橋定期点検（平成26年6月 国土交通省道路局）の６ページで、「道路橋ごとの健全性の診断は（～中略～）主要な部材の最も厳しい健全性の診断結果で代表させることができる」とあるが、機械的に（オートマチックに）部材の最悪値を代表させていけない。技術者の知見で全てマニュアル的に診断するのが今回の点検要領である。

サテライト講習会場の様子

（３）道路橋の損傷事例と点検時着目点

講師　国土技術政策総合研究所・土木研究所
各職員

各部材・構造に分けて点検時着目点の講義が行われました。コンクリート部材を代表して各スライドを下記に示します。

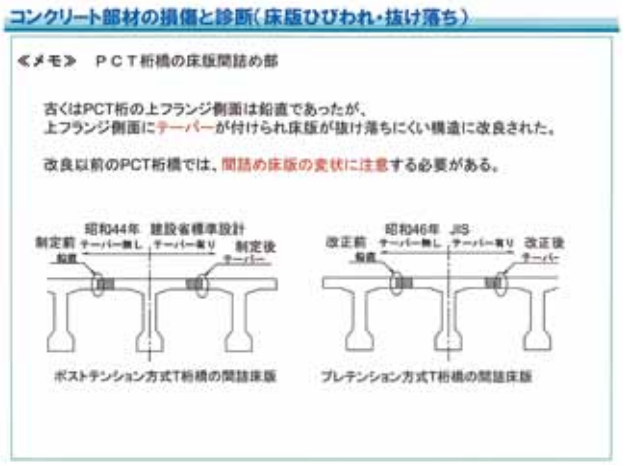


図３　点検時に必要な基礎知識

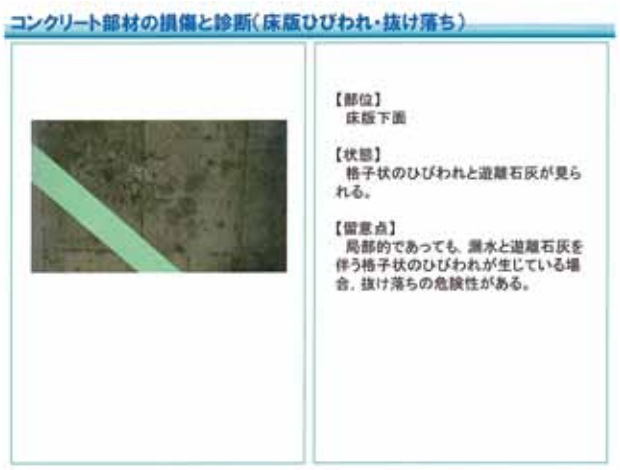


図４　損傷の事例

図５　診断の事例

4. 現場実習

最終日は、講師に北陸地方整備局の専門家を迎え、阿賀野川大橋を会場として、点検の実体験と点検方法の指導が行われました。

主な講義内容を下記に示します。

- **高所作業車より床版ひび割れ及び鋼部材の損傷を目視点検。**
- **橋台に発生したひび割れの幅、長さを測定。**
- **橋台に発生したうきを確認し打音検査の実体験。**
- **コンクリート内部探査器を用いての非破壊検査の手法の講義・実体験。**
- **磁粉探傷試験の原理・手法の講義。**
- **各種点検結果から記録様式への記入方法と診断結果の書き方、着目点の講義。**

高所作業車を用いた点検風景

各種機器の使い方の講義

非破壊検査の実体験

5. おわりに

今回の講習会は、4日間という長丁場でしたが、現在の課題・点検の法体系及び手法・損傷事例等、幅広く中身の濃い講義で大変勉強になりました。

また、現場実習では熱心な質問も多く、実際に点検を行う上で重要な事を実体験で学習できたことが、この講義を受ける上で非常に勉強になりました。同時に実際の点検業務を行い、数多くの損傷を目にしていくことが診断を下す上で重要であると痛感した次第です。全体を通し、大変有意義な講習会であったと感じました。

参考文献

1）平成27年度 道路橋メンテナンス技術講習【（財）全国建設センター・（社）建設コンサルタンツ協会】

2）道路構造物管理実務者研修（橋梁初級Ⅰ）道路橋の定期点検に関するテキスト【国土交通省国土技術政策総合研究所】

3）道路橋定期点検に関する参考資料（2013年版）【国土交通省国土技術政策総合研究所】

お知らせ

たのしく学ぼう
ふるまち防災フェスタ

〈広報部会〉

1. はじめに

平成27年6月13日（土）、新潟市中央区古町７番町（古町モール）において、「ふるまち防災フェスタ」（主催：にいがた防災アクション2015実行委員会）が開催されました。

本防災フェスタは、新潟地震発生日直前の休日に、災害時に役立つ情報や商品の紹介、災害疑似体験などのイベントを開催することで、防災について学び、考える機会を創出し、市民の防災意識向上を図ることを目的として、今年も数多くの団体が出展しました。

大いに賑わった古町モールの様子

2. 出展ブース概要

建設コンサルタンツ協会北陸支部としては、「災害に備える」「自然と共に生きる」「快適で住みやすいまちづくり」「古くなった社会資本を活かす」を基本テーマとし、建設コンサルタントの仕事についてパネルや動画を用いながら市民に知ってもらうことを主目的として参加しました。

具体事例では、新潟県中越地震、新潟県中越沖地震、石川県能登半島沖地震、新潟福島豪雨の復旧状況と建設コンサルタントの役割について紹介させていただきました。

出展ブースの様子 1

出展ブースの様子 2

出展ブースの様子 3

3. その他の出展団体

我々建設コンサルタンツ協会北陸支部のほか、NTT東日本新潟支店、コープにいがた、国土交通省北陸地方整備局、コメリ防災対策センター、新潟県、新潟県警察本部、NICO（にいがた産業創造機構）、新潟市消防局、新潟市水道局、新潟大学災害・復興科学研究所、NEXCO東日本、北陸ガスが出展しました。地震の揺れを体験できる起震車や、大雨を経験できる降雨体験装置など実際に災害を体験できるブースが多数展示され、ステージイベントや、ゆるキャラたちとのクイズ大会など防災について楽しく学べるイベントが盛りだくさんでした。

ゆるキャラたちとクイズ大会

白バイ隊にもなれるよ！

消防隊出動！

大雨を体験！

4. おわりに

近年の災害や水害など、自然災害が発生していることで、建設コンサルタンツ協会北陸支部の展示ブースには、多くの親子にお立ち寄りいただき、アンケートにご協力をいただきました、我々建設コンサルタントの役割を広く知っていただいたよい機会だったと感じています。

今後も、このようなイベント等を活用しながら、仕事の内容の理解や魅力向上につながるべく、取り組んでいく必要があると感じた次第です。

お知らせ

親子で見学会

船に乗って信濃川の新たな発見と新潟の未来を想像してみよう！

〈広報部会〉

平成27年8月22日（土）建設コンサルタンツ協会北陸支部恒例の「親子で見学会」を開催致しました。

今年は、「船に乗って信濃川の新たな発見と新潟の未来を想像してみよう！」と題して、多数の小学生と保護者に参加いただきました。

概要

日　時：平成27年８月22日（土）　9：00～11：30
場　所：信濃川、萬代橋、万代クロッシングほか
参加者：25名（小学生14名、保護者11名）
共　催：新潟市
北陸地方整備局信濃川下流河川事務所
北陸地方整備局新潟国道事務所
後　援：新潟県　新潟商工会議所　新潟日報社

寺本支部長の開会あいさつ

スケジュール

9:00～ ばんだい丸発着所前の広場
9:05～ ガイダンス
9:15～ 見学会スタート
・信濃川から見た「やすらぎ堤」「萬代橋」など
・万代クロッシング
・新潟日報メディアシップ20F展望広場
11:30　終了・解散

出航前はワクワクです

見学会の様子

当日は朝から小雨模様で天候の悪化が心配されましたが、参加者の熱意により開始と同時に雨も上がり、無事に見学会をスタートすることができました。

参加者全員で屋形船である「ばんだい丸」に乗船し、建設コンサルタントの仕事について当協会の髙橋広報委員長よりガイダンスを行いました。その後、やすらぎ堤の役割や、信濃川に生息する生物、信濃川にかかる萬代橋、八千代橋の新潟地震の痕跡などについて、国土交通省信濃川下流河川事務所の服部建設監督官より、クイズ形式等で小学生にもわかりやすく説明していただきました。さらに普段はめったに見られないカーフェリーの旋回の様子を近くで見学することができ、参加した小学生たちは熱心にカメラを向けていました。

信濃川の治水・利水・環境に関する説明

「ばんだい丸」による信濃川の周遊が終わった後、船から降り、歩いて萬代橋を渡り万代クロッシングまで移動しました。万代クロッシングでは、国土交通省新潟国道事務所の今さんより萬代橋の昔と現在の構造について紙芝居風のわかりやすい資料で説明していただきました。実際に初代萬代橋に使われていた杭が展示されており、当時、大変な工事だったことがうかがえました。また、こちらもクイズ形式による説明で、小学生との微笑ましいやりとりがありました。さらに、保護者からは技術面に関する質問が飛び出すなど、萬代橋に対する市民の思いを強く感じました。

信濃川に架かる萬代橋を歩いてみた

萬代橋の説明に聞き入る

続いて、新潟日報社メディアシップ20階にある展望フロアへ移動しました。先ほど乗船した「ばんだい丸」や萬代橋はもとより、新潟市の中心市街地が一望に見渡せる場所であることから、参加者からは感嘆の声がこぼれていました。

ここでは新潟市まちづくり推進課の中山主査より新潟市のまちづくりについて説明していただきました。新潟市などの行政機関や建設コンサルタントなどのまちづくりに携わる会社だけがまちをつくるのではなく、そこに住んでいる地域の方々がまちを作りあげていくことが大切であるとの説明に、参加者一同が大きく頷いていたことが印象に残りました。

展望フロアで新潟のまちづくりを説明

全員で記念撮影

見学会では、小学生と保護者それぞれにアンケートを実施しました。結果の一部となりますが、今回の体験を友達に伝えたいとの回答が多数あったこと、もっと詳しい話を聞きたい、普段入れないところに行ってみたいなど、道路、橋、川などに関する興味の醸成や今後も見学会に参加してみたいという意見を確認することができました。

このような結果を受け、今後も参加者の満足度を得ながら、私ども建設コンサルタントの理解を促したり、担い手の確保につながる場の一つに親子見学会を位置付けて取り組んでいきたいと感じた次第です。

最後に、本見学会開催にあたり、新潟市、北陸地方整備局信濃川下流河川事務所、同新潟国道事務所など、多くの皆様に多大なるご協力を頂きました。この誌面をお借りして感謝申し上げます。

お知らせ

平成27年度 建設コンサルタンツ協会北陸支部 業務・研究発表会

〈技術部会　品質向上委員会〉

1. 開催の背景と目的

建設コンサルタンツ協会北陸支部業務・研究発表会は一昨年、建設コンサルタンツ協会50周年記念事業の一環として開催されました。その後、建設コンサルタンツ協会北陸支部会員の業務における優れた成果や研究開発成果の発表を通じて、お互いの技術の研鑽を図ることを目的として継続的に開催することとなり、実施したものです。

2. 開催概要

（1）対象業務と専門技術分野

建設コンサルタント企業に属する技術者を対象として平成25、26年度に従事した建設コンサルタンツ協会北陸支部包括区域（新潟県・富山県・石川県）における国・地方自治体等に関する業務・研究としました。

また、専門分野は「河川、砂防及び海岸・海洋」「道路」「都市計画及び地方計画」「地質」「土質及び基礎」「鋼構造及びコンクリート」「トンネル」「建設環境」の8部門としました。

（2）選考方法

①第1次審査

平成27年2月下旬から同年5月15日までの間で参加者を募集したところ19編の応募がありました。審査は北陸支部選考委員会にて新規性、市場性、論理性の観点から厳正なる審査を実施し、8編を選考しました。

②北陸支部業務・研究発表会（第2次審査）

第1次審査で選考された8編を対象として「北陸支部業務・研究発表会」を新潟市の興和ビル10Fにて開催しました。

当日は110名の方に聴講頂きました。

発表論文選考結果

テーマ	発表者
ビックデータを活用した新たな道路交通指標の検討	エヌシーイー株式会社　総合計画部 ○池田 薫・山村裕章・川端光昭
道路除雪のあり方に関する一考察	開発技建株式会社　調査計画部 ○飯田雅之・佐藤吉一・佐藤勝昭
事故対策（右折分離ゼブラ帯）による効果評価方法の検討	開発技建株式会社　交通計画部　調査課 長谷川 寛・原 弘行・○矢吹祐輔・坂庭宏樹
ASR劣化により横締め破断が確認されたPCT桁の耐荷性評価	株式会社国土開発センター　設計事業部設計1部 ○亀田浩昭・浦 修造・笹谷輝彦
小流量・低落差を克服した用水路対応型水車の開発と収益性の高いビジネスモデルの構築	株式会社新日本コンサルタント 市森友明・阿曽克司・○古野昌吾
北陸新幹線開業（分離駅）に合わせた公共交通整備検討	株式会社新日本コンサルタント　設計計画本部都市デザイン部都市計画グループ　○大門健一・道木 健
3次元形状情報を活用したCIM活用試行支援業務	大日本コンサルタント株式会社　ICT統括センター、技術統括部 櫻井和弘・和泉 繁・○神原由紀
手取川右岸集落における広域斜面危険度判定マップの適用性について	株式会社日本海コンサルタント　技術事業本部　防災構造部 ○東 寛和・西野尚志・荒木龍介・橋本隆司・小間井孝吉・川村國夫

（○は発表者を示す）

発表会の様子１　支部長挨拶

第２次審査の様子

発表会の様子２　聴講の様子

審査委員総評の様子　今野委員

発表会の様子３　業務・研究発表の様子

審査委員総評の様子　高橋委員

審査員は審査委員長として長岡技術科学大学佐野教授、後援をいただいた北陸地方整備局、新潟県から各1名、建設コンサルタンツ協会北陸支部から支部長、技術部会長の計５名で審査を実施しました。

審査は論文、プレゼン等の観点から総合的に評価し、最優秀賞である支部長賞、奨励賞、審査員特別賞の３論文を選考しました。

審査委員氏名	所属
審査委員長 佐野 可寸志	長岡技術科学大学大学院 都市交通研究室　教授
審査委員 今野　和則	国土交通省　北陸地方整備局 地方事業評価管理官
審査委員 高橋　亮一	新潟県　土木部　技術管理課 工事検査室長
審査委員 寺本　邦一	（一社）建設コンサルタンツ協会 北陸支部　支部長
審査委員 渡邊　雅樹	（一社）建設コンサルタンツ協会 北陸支部　技術部会長

（３）大学との連携

本発表会は、新潟市を会場としたことから長岡技術科学大学、新潟大学を対象に学生講演を依頼しました。

両大学から学生を推薦していただき、業務・研究発表会で発表していただきました。

演　題：長期暴露したコンクリートにおけるセメント水和物の化学分析と炭酸化機構に関する検討
発表者：新潟大学　工学部　建設学科
高市　大輔

演　題：道の駅を活用した地域活性化の取り組み事例
発表者：長岡技術科学大学　都市交通研究室
谷澤　明日菜

また、審査委員長を務めて頂いた長岡技術科学大学の佐野教授からは審査だけでなく、基調講演も行っていただきました。

演　題：北陸信越地方の道路ネットワーク整備

3. 審査結果

表彰された３論文・発表者を示します。

●支部長賞（本部発表会推薦）

３次元形状情報を活用したCIM活用試行支援業務

発表者：神原　由紀
大日本コンサルタント株式会社

●奨励賞

道路除雪のあり方に関する一考察

発表者：飯田　雅之
開発技建株式会社

●審査員特別賞

手取川右岸集落における広域斜面危険度判定マップの適用性について

発表者：東　寛和
（株）日本海コンサルタント

4. おわりに

業務・研究発表会開催にあたり、北陸地方整備局、新潟県、関係大学の皆様、そして北陸支部会員会社から、ご多忙中にもかかわらず、多大なご理解とご協力を頂き、大変ありがとうございました。

来年度も開催する予定となっております。

発表会の際に行ったアンケート結果を踏まえ、よりよい会としたいと考えております。

今後とも、皆様からのご協力賜りますよう、合わせてお願い申し上げます。

表彰式の様子

お知らせ

平成27年度 北陸支部防災訓練の結果

一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 北陸支部

〈総括部会・災害対策部会〉

北陸支部では、9月1日に防災訓練を実施しました。午前は、北陸支部の防災訓練として例年と同様に初期行動（現地本部設置）に重点を置きながら、送受信の即効性等を図るべく、連絡様式の簡素化と電子メールによる対応とする演習を実施しました。また、午後は本部主催の防災訓練を行い、中国地方で大規模地震が発生したことを想定し、これに対する災害時行動計画に基づく災害時行動の演習を実施しました。

このうち、本稿では新潟地区（参集段階から実施）、富山地区、石川地区のそれぞれで実施した北陸支部の防災訓練について報告するものとし、さらに、最終的な結果を新潟地区で取りまとめた点から、新潟地区での取り組みを中心に整理致します。

1. 北陸支部防災訓練の実施日時

日　時：平成27年9月1日（火）　8：40～12：00
場　所：北陸支部事務局、富山地区事務所、石川地区事務所

2. 参加者（新潟地区）

寺本支部長、中俣副支部長、高田運営委員長、髙橋技術総括指揮者、木村副責任者、青木総括部会長、佐藤委員、西潟委員、清原委員、高野委員

3. 想定した地震の規模

午前8時、新潟県南西沖でM7.7の地震発生、最大震度は6強が上越市、5強が新潟市などで観測。

4. 北陸支部防災訓練の様子など

（1）訓練の様子

災害対策　新潟　現地本部の様子

（2）訓練の特徴

今回の訓練では、平成26年度に実施した防災訓練の課題解決を図るとともに、さらなる取り組みを実施しました。

その主な概要を以下に示します。

平成26年度の課題に対する主な対応事項

- 予め各社で災害担当責任者を2名選出し、窓口の複線化を図った。
- 災害対策現地本部から連絡する支部様式の簡素化を実施。

さらなる検証・取り組み事項

- 災害担当責任者への連絡は電子メールだけで確認できるか検証。
- 災害対策現地本部の設置・解散に関する連絡を北陸地方整備局、新潟県などの関係機関に対しても実施。

（3）訓練の流れ

取り組みの流れを時間とともに以下に示します。

6:00　新潟県南西沖でM7.7の地震発生

8:45　関係機関から協定に基づく支援要請が届き、技術総括指揮者は支部長に参集の必要性を確認

8:50　技術総括指揮者・総括部会長が分担して関係者に参集連絡

9:40「災害対策現地本部」を設置

- **新潟地区、富山地区、石川地区でそれぞれ設置**
- **関係機関に対し、メールと電話で「災害対策現地本部」を設置したことを連絡**
- **会員会社に設置報告と被災対応依頼の可否についてメール確認を開始**

10:40　1時間以内返信の状況を確認
30分以内返信の状況も合わせて確認

11:40　2時間以内返信の状況を確認

12:00　北陸支部の訓練終了

5. 訓練の結果について

（1）時間ごとの返信状況

単位：社

	対象会社	返信時間別の状況		
		30分以内	1時間以内	2時間以内
新潟地区	43	20	28	33
富山地区	11	4	6	8
石川地区	8	4	5	6
合計	62	28	39	47

※1時間以内返信を条件に訓練を実施

返信は1時間以内回答を求めて発信しましたが、支部全体として1時間以内は39社（63%）、2時間以内は47社（76%）であった。参考に、昨年度は、前者は95%、後者は100%であった。

（2）2時間以内で回答を得られなかった理由

2時間以内で回答が得られなかった会社を対象に、その要因を電話で確認しました。

その内容を以下に示します。

①新潟地区

・正の担当者は外出、副の担当者はメールを確認したがいたずらメールと勘違いし、そのままにしていた。

・支部で登録しているメールアドレスが一部間違っており、メール連絡が届いていなかった。

・事務所にいたが、メールに気が付かなかった。

・正・副担当者は、出張、休みなどで気が付かなかった。（富山地区・石川地区でも同様の事例あり）

・現地本部にメールを送信したとのことであったが、現地本部にメールが届いていなかった。

・現地本部宛のメールアドレスを確認せず、通常時に利用している支部のアドレスに送っていた。さらに、支部に送られたメールが自動的に迷惑メールフォルダに分類されていた。（2社）

②富山地区

・単純に失念していた。

③石川地区

・新潟地区で記載した以外はなし。

（3）その他、気づいた点など

①新潟地区

・回答メールの添付ファイルにパスワードが設定されており、現地本部で確認する手間が増えた。（2社）

・1社から支部のパソコンで開けないソフト（Docu Works）で返信されたため、添付ファイルを開くことができなかった。（PDFで送り直してもらった）

・正と副の担当者から、それぞれ異なった返信が届いた。内部で確認・調整等して回答していない可能性があった。（富山地区でも確認）

②富山地区

・当日は社内の防災訓練もあり、会社、個人のパソコン、携帯に安否確認等のメールがあり、情報が輻輳した。実際の災害時にもこのように情報が輻輳すると感じた。

③石川地区

・各社へのメール発信は一斉配信が可能であり、発信側としては容易に対応できた。

・メールはFAXと異なり、受信者以外は確認できないことから回答できないケースがあった。

・メール送信時に暗号化する会社もあり、災害時に障害とならないか懸念される。

6. 今後に向けて

今回の訓練の返信状況は、昨年度と比べて大きく低下したことが確認できた。

これは、本訓練を計画する際に予想していたことであり、実際の取り組みで、それが明らかになった状況となった。

そこで、今回の防災訓練を通じ、今後は以下の点に配慮しながら実効性ある取り組みに繋げるべく、取り組んでいきたいと考えております。

①災害協定を締結している関係機関や施設管理者との密接な連携。

②情報の受発信は、一つの通信手段だけでなく、対応可能な多重的な連絡手段を用いながら実施する。

③支部様式B－3をメールで送る場合は、添付したファイルに記載し、そのうえで回答しなくても返信のメール文で分かるように記載するだけでも良いことにする（添付ファイルによる手間を省く）。

④継続した訓練の実施

⑤建設コンサルタンツ協会の取り組みだけでなく、各社でも災害時の対応に関する意識を高めて臨んでもらう。

お知らせ

平成27年度 道路・トンネル技術講習会
「道路の維持管理」「災害に強い道づくり」

〈技術部会　道路委員会・トンネル委員会〉

1. はじめに

協会員の幅広い知識の習得と、技術者の継続教育の一環として、平成27年８月21日（金）午後１時より、石川県地場産業振興センターにおいて「道路・トンネル技術講習会」が開催された。（参加者48名）

講習会の状況

2.　講習会プログラム

第１部講演

道路の維持管理に関する最近の話題
国土交通省　北陸地方整備局　道路部
道路保全企画官　川村　雅一　氏

第２部講演

災害に強い道づくりのために
～防災ドクターから道路エンジニアへのメッセージ～
金沢工業大学　環境・建築学部　環境土木工学科
教授　川村　國夫　氏

3. 講演の内容

3.1　第１部：道路の維持管理に関する最近の話題

（１）道路インフラの現状

①道路（橋梁）の高齢化

・日本の道路の約８割、橋梁の約７割は市町村道であり、地方公共団体の維持管理が重要。
・全国の橋梁約70万橋のうち、建設後50年以上経過した橋梁は平成25年の18%から10年後には43%に増加。

②道路の損傷・老朽化事例

・緊急的に整備された箇所（首都高速道路等）や立地環境の厳しい箇所、点検が困難な箇所では、橋梁の重大な損傷が進行、顕在化。
・トンネルや照明などの道路附属物においても老朽化による事故等が散見。
・一方で、適切な補修、補強が行われている橋梁（例：萬代橋、犀川大橋）は、80歳を超えても大きな損傷もなく供用中。

（２）「荒廃するアメリカ」の事例

・米国では1980年代に多くの道路施設が高齢化。
・1971年に２年に１回の橋梁点検を法定化し、道路投資も1980年代以降、大幅に拡大したが、近年においても重大な落橋事故が発生。

（３）老朽化対策の課題

川村　雅一　氏

①道路維持修繕費の不足

・直轄の維持修繕費は、本来ならば増やすべきところ、10年間で約１割減少。

②地方公共団体における技術者の不足

・町の約３割、村の約６割で橋梁保全に携わる土木技術者が不在。

③地方公共団体の点検方法（点検の質）

・市町村の橋梁点検の約８割は遠望目視で実施。
・近接目視でしか分からないボルトの緩みやコンクリートの浮き等の損傷が放置されている恐れ。

（４）国土交通省の取組みと目指すべき方向性

平成26年４月の「道路の老朽化対策の本格実施に関する提言」を受け、下記①、②の二本柱で本格的なメンテナンスサイクルを始動。

①メンテナンスサイクルを確定

・省令、告示により、道路の点検→診断→措置→記録に

関する道路管理者の義務を明確化。
・国が定める統一的な基準（定期点検要領）により、５年に１回の近接目視による全数監視を実施。
・平成26年度の点検実施率は、昨年７月策定の点検計画に対し２％低く、市区町村の橋梁や跨線橋の点検が遅れている状況。
・点検、診断、措置の公表（見える化）、も義務付け。
②メンテナンスサイクルを回す仕組み（支援）
・地方公共団体への支援として、大規模修繕・更新費用の補助、『道路メンテナンス会議』の設置、メンテナンス業務の地域一括発注、橋梁の『直轄診断』の試行、点検研修の充実などを実施。
・北陸地整管内では、富山市の八田橋架け替えを大規模更新事業により実施。

（５）その他の最近の話題
①「暮らしの道」の取組み
②今後の「道の駅」の取組み
③短時間集中豪雨に対応した通行規制基準

３.２　第２部：災害に強い道づくりのために～防災ドクターから道路エンジニアへのメッセージ～

（１）近年の道路被災事例
・国土交通省防災ドクターならびに石川県防災アドバイザーとして、平成26年～27年前半に出動された石川県、富山県の被災現場を紹介。
・紹介された箇所は、いずれも緊急輸送道路に該当。特に、代替路線（迂回路）がない緊急輸送道路は、「災害に強い道」として整備が必要。

（２）防災計画と道路整備
・中央防災会議作成の「防災基本計画」では、地方公共団体が災害発生時の緊急輸送ネットワークの形成を図ることを規定。
・「石川県地域防災計画」においても緊急輸送道路ネットワークを定め、整備を進めているところ。

川村　國夫　氏

・しかし、現実的には平成19年能登半島地震において第１次緊急輸送道路に指定されている「のと里山海道（旧能登有料道路）」や国道249号が崩壊。また、迂回路のない国道157号（白山市東二口地内）でも、平成26年、27年の２回にわたり通行規制が必要な崩壊が発生。

（３）緊急輸送道路の整備優先度
①概要
・緊急輸送道路の計画的、効率的な整備を図るため、道路構造物の信頼度に着目した整備優先度を金沢工業大学、石川県道路整備課、石川県建設コンサルタント協会の三者共同で検討。
②奥能登地域における整備（耐震化）優先度
・能登半島地震の震度分布と実際に損傷した道路構造物の位置関係から、構造物種別毎（橋梁、トンネル、盛土等）の震度階別不通率を算定。
・防災拠点を結ぶ複数のリンク（ルート）からなるネットワークを設定。併せてリンク内の構造物すべてに不通率を設定し、構造物DBを作成。
・構造物情報からリンクおよびネットワークの信頼度を計算。ネットワークの信頼度向上に最も効果的な構造物を逐次抽出し、すべての構造物に耐震化優先度を設定。
・この手法により、ルートの整備優先度や整備段階毎の信頼度も定量的に評価が可能。
・南海トラフ巨大地震の発生時に救援活動を担う東海北陸自動車道（小矢部～白川郷）についても、前記と同様の手法で耐震化優先度を設定した結果を紹介。
④今後の取組みなど
・緊急輸送道路の信頼度向上は４車線化が有効！
　４車線すべて崩壊する可能性は極めて低い。
・道路管理システムとハザードマップ等を組み合わせたプラットホーム化。
・コストの要素を組み入れた整備優先度の設定。

4. おわりに

第１部「道路の維持管理に関する最近の話題」では、老朽化対策の取組みの中で顕在化した課題についてもご説明頂きました。そのうち、点検・診断結果のばらつき、土木技術者不足、メンテナンス技術の開発などについては、コンサルタントとしても改善・支援に取り組むべき課題であると認識しました。

第２部「災害に強い道づくりのために」でご紹介頂いた整備優先度の設定は、防災対策や改良復旧の箇所選定に有用な定量的手法と考えられます。構造物DBの作成に労力が必要ですが、豪雨災害や道路以外の土木施設にも適用できる可能性を感じました。

最後に、大変貴重な講演をして頂いた講師の方々に心より感謝申し上げます。

北陸支部活動報告

平成27年４月９日

北陸支部会計監査

場　所／北陸支部会議室

実施者／支部監事　山本支部監事、高堂支部監事

立会者／高田運営委員長

平成27年４月９日

平成27年度第１回役員会

場　所／興和ビル会議室

議　題／平成26年度監査報告

第33回北陸支部定時総会議案について　他

平成27年４月23日

インフラ再生技術者育成新潟地域協議会第１回幹事会

場　所／長岡科学技術大学

出席者／渡邊技術部会長

平成27年４月23日

大規模津波防災総合訓練実行委員会（第１回）

場　所／北陸地方整備局

対応者／青木総括部会長、髙橋技術総括指揮者

平成27年４月23日

平成27年度　北陸支部定時総会

場　所／新潟市内

総　会／第１号議案　平成26年度事業報告

第２号議案　平成26年度決算

監査報告

第３号議案　平成27年度事業計画（案）

第４号議案　平成27年度予算（案）

第５号議案　役員の選任

講演会／演題「今後の道路管理と道路管理システム」

講師　一般財団法人　道路管理センター

審議役　大寺　伸幸　氏

平成27年４月24日

新潟地域委員会

場　所／北陸支部会議室

議　題／平成27年度事業計画等について

平成27年５月７日

支部部会長会議

場　所／北陸支部会議室

議　題／平成27年度事業計画等について

平成27年５月８日

インフラ再生技術者育成新潟地域協議会第１回協議会

場　所／長岡科学技術大学

出席者／寺本支部長

平成27年５月13日

大学PR活動

場　所／新潟工科大学

対応者／真嶋品詞向上委員長

平成27年５月13日

大学PR活動

場　所／富山県立大学工学部

対応者／渡辺橋梁委員長、大蔵広報委員

平成27年５月13日

技術部会都市計画委員会

場　所／富山市内

議　題／平成27年度事業計画等について

平成27年５月14日

技術部会品質向上委員会

場　所／北陸支部会議室

議　題／平成27年度事業計画等について

平成27年５月14日

技術部会橋梁委員会

場　所／北陸支部会議室

議　題／平成27年度事業計画等について

平成27年５月14日

技術部会河川及び砂防委員会

場　所／富山市内

議　題／平成27年度事業計画等について

平成27年５月14日

大学PR活動

場　所／石川高専

対応者／木下道路委員、藤本道路委員、瀧上広報委員

平成27年５月14日

大学PR活動

場　所／長岡技術科学大学

対応者／神田道路委員長

平成27年５月14日

大学PR活動

場　所／金沢工業大学

対応者／今度トンネル委員長

平成27年５月14日

大学PR活動

場　所／石川県立大学

対応者／木下道路委員

平成27年５月１５日

大学PR活動

場　所／新潟大学理学部

対応者／小見都市計画委員長

平成27年５月15日

講師派遣

派遣先／インフラ再生技術者育成新潟地域協議会（ME）

派遣数／１名

内　容／平成27年度ME養成講座（防災）

平成27年５月19日

技術部会道路委員会

場　所／北陸支部会議室

議　題／平成27年度事業計画等について

平成27年５月20日

協会本部広報専門委員会

場　所／協会本部会議室

対応者／芳野広報委員

平成27年５月20日

広報部会

場　所／北陸支部会議室

議　題／平成27年度事業計画等について

平成27年５月21日

大学PR活動

場　所／新潟大学工学部

対応者／樋浦情報委員長、佐々木広報部会長

平成27年５月22日

講師派遣

派遣先／インフラ再生技術者育成新潟地域協議会（ME）

派遣数／１名

内　容／平成27年度ME養成講座（防災）

平成27年５月22日

技術部会委員長会議

場　所／北陸支部会議室

議　題／平成27年度事業計画等について

平成27年５月22日

協会本部コンプライアンス委員会

場　所／協会本部会議室

出席者／西潟常夫委員

平成27年５月26日

大学PR活動

場　所／新潟大学農学部

対応者／佐藤建設環境委員長

平成27年５月28日

講師派遣

派遣先／（一財）新潟県建設技術センター

派遣数／２名

平成27年５月28日

平成27年度建設技術報告会第１回実行委員会

場　所／新潟国道事務所

出席者／高橋広報委員長

平成27年６月２日

総括部会・災害対策部会合同会議

場　所／北陸支部会議室

議　事／平成27年度事業計画等について

平成27年６月２日～４日

平成27年度道路橋メンテナンス技術講習会　座学（本部共催）

場　所／新潟市内

内　容／サテライト講習

～本格的なメンテナンス技術の習得のために～

受講者／50名

平成27年６月３日

大規模津波防災総合訓練実行委員会（第２回）

場　所／北陸地方整備局

対応者／青木総括部会長、高橋技術総括指揮者

平成27年６月３日～４日

第13回北陸道路舗装会議（実行委員会主催）

場　所／新潟市内

内　容／記念講演

「インフラ分野の国際協力と海外戦略」

（公社）土木学会国際センター

センター長代行　山川　朝生　氏

口頭報文発表　34編

ポスターセッション発表　22編

口頭報文発表　37編

ポスターセッション発表　22編

パネルディスカッション

平成27年６月５日

平成27年度道路橋メンテナンス技術講習会　現地実習（本部共催）

場　所／新潟市内

内　容／現場における点検手法を実体験

（一般国道７号　阿賀野川大橋　下り）

講　師／北陸地方整備局道路部　飯野道路構造保全官

山田道路構造保全官

北陸技術事務所　古川技術情報管理官

若月維持管理技術第一係長

受講者／50名

平成27年６月５日

広報部会会誌委員会

場　所／北陸支部会議室

議　事／会誌「雪の音」、会員名簿の原稿確認について

平成27年６月５日

広報部会広報委員会

場　所／北陸支部会議室

議　事／社会貢献活動の実施計画について

平成27年６月５日

業務・研究発表会打合せ会議

場　所／北陸支部会議室

議　事／業務・研究発表会の発表論文について

平成27年６月13日

にいがた防災アクション2015　ふるまち防災フェスタ

場　所／新潟市内

内　容／パネル出展

平成27年６月19日

北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会富山県部会

場　所／富山河川国道事務所

出席者／吉田副支部長

平成27年６月21日

北陸支部石川事務所社会貢献活動

白山外来植物除去作業 in 市ノ瀬一斉防除

場　所／白山国立公園

内　容／外来植物除去作業

参加者／104名

平成27年６月23日

平成27年度新潟県技術管理関係説明会

場　所／新潟市内

出席者／渡邊技術部会長、真嶋品質向上委員長、森品質向上委員

平成27年６月23日

北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会新潟県部会

場　所／北陸地方整備局

出席者／中俣副支部長

平成27年６月23日

平成27年度北陸地方建設副産物対策連絡協議会

場　所／北陸地方整備局

出席者／佐藤建設環境委員長

平成27年６月23日

第４回北陸若手技術者育成支援検討会

場　所／北陸地方整備局

出席者／竹内若手技術者WGリーダー

片岸若手技術者WGサブリーダー

平成27年６月23日

協会本部第２回災害時対応検討委員会

場　所／協会本部会議室

対応者／髙橋技術総括指揮者

平成27年６月23日

平成27年度第２回役員会

場　所／新潟市内

議　題／協会本部定例運営会議等報告　他

平成27年６月25日

防災特別講演会（後援）

場　所／北陸地方整備局

内　容／講演「北陸地方の風土に刻された災害の宿命」
～環境防災学と風土工学の視座～
講師　環境防災研究所長　竹林　征三　氏

平成27年６月26日

平成27年度「北陸の建設技術」第１回編集委員会

場　所／高田河川国道事務所

議　題／平成26度活動計画等について

出席者／齋藤会誌編集委員会委員

平成27年７月１日

講師派遣

派遣先／北陸地方整備局

派遣数／１名

内　容／平成27年度道路構造物管理実務者
（橋梁初級Ⅰ）研修【西部】

平成27年７月３日

北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会石川県部会

場　所／金沢河川国道事務所

出席者／新家副支部長

平成27年７月６日

けんせつフェア北陸 in 金沢2015　第２回幹事会

場　所／新潟市内

出席者／松浦事務局長

平成27年７月８日

講師派遣

派遣先／北陸地方整備局

派遣数／１名

内　容／平成27年度道路構造物管理実務者
（橋梁初級Ⅰ）研修【東部】

平成27年７月８日

インフラ再生技術者育成新潟地域協議会第２回幹事会

場　所／北陸技術事務所

出席者／渡邊技術部会長

平成27年７月８日

協会本部第１回対活・白書合同委員会

場　所／協会本部会議室

出席者／横山白書委員

平成27年７月11日

北関川・姫川「7.11災害」20年メモリアルフォーラム（協力）

場　所／上越市内・糸魚川市内

内　容／（上越会場）基調講演　東京大学大学院
小池俊雄教授
7.11水害ニュース映像放映
パネルディスカッション　など
（糸魚川会場）基調講演　製作研究大学院大学
水山高久特任教授
7.11災害（土砂災害）記録映像放映
パネルディスカッション　など

平成27年７月13日

北陸ブロック意見交換会

場　所／新潟市内

出席者／北陸地方整備局　藤山局長他10名
新潟県　小林技監他１名
富山県　上坂建設技術企画課主幹
石川県　高田監理課技術管理室主幹
新潟市　樋山技術管理センター長他１名
協会本部　長谷川会長他12名
北陸支部　寺本支部長他20名

平成27年７月15日

新潟地域委員会

場　所／北陸支部会議室

議　題／平成27年度意見交換会等について

平成27年７月21日

大学PR活動（１年生への学生説明会）

場　所／金沢大学

対応者／藤本道路委員

平成27年７月22日

平成27年度　マネジメントセミナー（本部主催）

場　所／新潟市内

講　師／本部担当委員会委員

内　容／・建設コンサルタントとマネジメント
・PFI事業における建設コンサルタントの役割と今後の展望
・CM業務の普及に向けて
・建設コンサルタントが係る環境配慮の事例
・リスクマネジメントを考慮したマネジメントシステムの効果的運用について
・品質の確保・向上に向けて

参加者／国２名、県１名、政令市４名、会員等85名　計92名

平成27年７月23日

講師派遣

派遣先／新潟県土木部

派遣数／１名

内　容／新潟県土木部研修「道路施設の補修補強技術（橋梁編）」

平成27年７月24日

出前講演（立山女性サロンの会）

場　所／富山市内

講　演／「東日本大震災における建コンの対応ならびに復興状況について」

講師　大日本コンサルタント（株）

東北支社副支社長　向田　昇　氏

平成27年７月25日

技術部会若手技術者WG

場　所／支部事務局会議室

議　題／平成27年度事業計画等について

平成27年７月27日

広報部会広報委員会

場　所／北陸支部会議室

議　事／社会貢献活動「親子で見学会」の実施について

平成27年７月27日

広報部会会誌委員会

場　所／北陸支部会議室

議　事／会誌「雪の音」の発刊計画について

平成27年７月28日

大学PR活動（２・３年生への学生説明会）

場　所／長岡技術科学大学

対応者／神田道路委員長、小見都市計画委員長

平成27年７月28日

ほくりく防災・減災考座2015（後援）

場　所／新潟市内

講　演／講演１

「消防広域応援体制について」

新潟市消防局警防課花鳥補佐　本間　勝嘉　氏

講演２

「大地に刻まれた巨大津波の痕跡を探る」

新潟大学教育学部　准教授　高清水　康博　氏

平成27年７月31日

補強土工法講習会および現地見学会（共催）

場　所／高岡市内及び富山河川国道事務所

内　容／講演

「坂東立体化事業の概要」

富山河川国道事務所　栗本　拓也　氏

「補強土工法の最新情報」

防衛大学校　宮田　喜壽　先生

「坂東道路（交差点部）工事の施工監理」

監理技術者　田中　和恵　氏（竹沢建設（株））

「消防広域応援体制について」

新潟市消防局警防課花鳥補佐　本間　勝嘉　氏

施工状況見学　一般国道８号　坂東立体化事業個所

平成27年８月３日

大規模津波防災総合訓練「部分全体会議」

場　所／聖篭町役場、新潟東港木材埠頭

対応者／青木総括部会長、髙橋技術総括指揮者、佐々木広報部会長

平成27年８月７日

けんせつフェア北陸 in 金沢2015　第２回実行委員会

場　所／新潟国道事務所

出席者／高橋広報委員長

平成27年８月７日

建設コンサルタンツ協会北陸支部主催　業務・研究発表会

場　所／新潟市内

内　容／基調講演

「北陸信越地方の道路ネットワーク整備」

長岡技術科学大学大学院

都市交通研究室　佐野　可寸志　教授

業務・研究発表　８編

学生講演　２編

平成27年８月19日

第12回社会資本整備セミナー（共催）

場　所／富山市内

内　容／演題「最近の国土交通行政の取り組みについて」

講師　北陸地方整備局　企画部

技術調整管理官　高島　和夫　氏

演題「最近の気象特性と

防災気象情報の利用について」

講師　富山地方気象台

気象情報官　山田　勝俊　氏

平成27年８月20日

第12回社会資本整備セミナー（共催）

場　所／金沢市内

内　容／演題「最近の国土交通行政の取り組みについて」

講師　北陸地方整備局　企画部

技術調整管理官　高島　和夫　氏

演題「最近の気象特性と

防災気象情報の利用について」

講師　金沢地方気象台　予報官　小林　勝彦　氏

平成27年８月20日

広報部会広報委員会

場　所／北陸支部会議室

議　事／社会貢献活動「親子で見学会」の実施について

平成27年８月21日

第12回社会資本整備セミナー（共催）

場　所／長野市内

内　容／演題「最近の国土交通行政の取り組みについて」

講師　北陸地方整備局

地方事業評価管理官　今野　和則　氏

演題「最近の気象特性と

防災気象情報の利用について」

講師　長野地方気象台

気象情報官　佐藤　義之　氏

平成27年８月21日

道路・トンネル技術講習会

場　所／金沢市内

内　容／「道路の維持管理に関する最近の話題」

講師　国土交通省北陸地方整備局　道路部

道路保全企画官　川村　雅一　氏

「災害に強い道づくりのために

～防災ドクターから道路エンジニアへのメッセージ～」

講師　金沢工業大学　環境・建築学部

環境土木工学科　教授　川村　國夫　氏

平成27年８月22日

社会貢献活動「親子で見学会」

（共催：信濃川下流事務所、新潟国道事務所、新潟市）

（後援：新潟県、新潟商工会議所、新潟日報）

場　所／新潟市内

内　容／信濃川からみた「やすらぎ堤」「萬代橋」など

（乗船体験）

万代クロッシング（萬代橋のお話）

新潟日報メディアシップ　20F（まちづくりのお話）

参加者／25名

平成27年８月24日

講師派遣

派遣先／新潟県土木部

派遣数／１名

内　容／新潟県土木部職員及び市町村職員合同研修「橋梁Ⅲ（行政編）」

平成27年８月25日

第12回社会資本整備セミナー（共催）

場　所／新潟市内

内　容／演題「最近の国土交通行政の取り組みについて」

講師　北陸地方整備局　企画部

技術開発調整官　倉重　毅　氏

演題「最近の気象特性と

防災気象情報の利用について」

講師　新潟地方気象台

気象情報官　小谷内　浩　氏

平成27年８月28日

講師派遣

派遣先／インフラ再生技術者育成新潟地域協議会（ME）

派遣数／１名

内　容／平成27年度ME養成講座（構造）１週目

平成27年８月31日

講師派遣

派遣先／富山県土木部

派遣数／１名

内　容／土木部技術職員研修（土木一般技術・中級）

一般社団法人　建設コンサルタンツ協会　北陸支部

会　員　名　簿

会　社　名	事業所名	住　　所	電話番号 FAX番号
朝日航洋㈱	北陸空情支社	950-0088 新潟市中央区万代2-3-6 新潟東京海上日動ビル2F	025-249-1150 025-249-1155
旭調査設計㈱		950-0908 新潟市中央区幸西1-1-11	025-245-8345 025-245-8349
アジア航測㈱	新潟営業所	950-0087 新潟市中央区東大通2-3-28 パーク新潟東大通ビル	025-243-3246 025-247-7969
㈱アルゴス		944-0009 妙高市東陽町1-1	0255-72-3448 0255-72-9426
アルスコンサルタンツ㈱		921-8116 金沢市泉野出町2-1-1	076-248-4004 076-248-4174
いであ㈱	北陸支店	950-0087 新潟市中央区東大通2-5-1 カープ新潟ビル	025-241-0283 025-243-5650
㈱エイト日本技術開発	新潟事務所	950-0087 新潟市中央区東大通2-1-20 ステーションプラザ新潟ビル8F	025-256-8611 025-256-8612
エヌシーイー㈱		950-0964 新潟市中央区網川原1-4-11	025-285-8540 025-285-3531
大原技術㈱		940-0856 長岡市美沢3-511	0258-35-4511 0258-36-3254
応用地質㈱	新潟支店	950-0864 新潟市東区紫竹7-27-35	025-274-5656 025-271-6765
㈱オリエンタルコンサルタンツ	北陸支店	950-0087 新潟市中央区東大通2-3-26 プレイス新潟	025-244-7881 025-244-7387
開発技建㈱		950-0914 新潟市中央区紫竹山7-13-16	025-245-7131 025-245-7132
㈱開発技術コンサルタント		951-8133 新潟市中央区川岸町3-33-3	025-233-0204 025-233-6465
川崎地質㈱	北陸支店	950-0914 新潟市中央区紫竹山5-7-5	025-241-6294 025-241-6226
基礎地盤コンサルタンツ㈱	北陸支店	950-0925 新潟市中央区弁天橋通1-2-34	025-257-1888 025-257-1880
北建コンサル㈱		933-0941 高岡市内免3-3-6	0766-23-3666 0766-23-3987
㈱キタック		950-0965 新潟市中央区新光町10-2	025-281-1111 025-281-0002
㈱協和		933-0838 高岡市北島1406	0766-22-2100 0766-22-7602
㈱クリエイトセンター		951-8133 新潟市中央区川岸町2-8-1	025-232-7121 025-232-7130
㈱クレアリア	新潟営業所	950-0916 新潟市中央区米山4-19-13 ハイムオカザキ	025-248-2205 025-248-2206

会　社　名	事業所名	住　　所	電話番号 FAX番号
㈱計画情報研究所		920-0025 金沢市駅西本町2-10-6	076-223-5445 076-223-4144
㈱建成コンサルタント		933-0014 高岡市野村284-1	0766-25-6097 0766-25-5697
建設技研コンサルタンツ㈱		933-0007 高岡市角602-1	0766-21-6126 0766-21-6192
㈱建設環境研究所	新潟支店	950-0965 新潟市中央区新光町6-1 興和ビル7F	025-285-6437 025-280-9750
㈱建設技術研究所	北陸支社	950-0088 新潟市中央区万代4-4-27 新潟テレコムビル	025-245-3883 025-241-9082
㈱建設技術センター	新潟営業所	950-0028 新潟市東区小金台9-9 202号室	025-250-8002 025-250-8004
㈱構造技研新潟		950-0932 新潟市中央区長潟1204-2	025-288-6800 025-288-6824
国際航業㈱	新潟支店	950-0087 新潟市中央区東大通2-3-26 プレイス新潟	025-247-0318 025-241-4146
㈱国土開発センター		921-8033 金沢市寺町3-9-41	076-247-5080 076-247-5090
国土防災技術㈱	新潟支店	950-2042 新潟市西区坂井1035-1	025-260-2245 025-260-7522
五大開発㈱		921-8051 金沢市黒田1-35	076-240-6588 076-240-6575
サンコーコンサルタント㈱	北陸支店	950-2055 新潟市西区寺尾上4-4-15	025-260-3141 025-268-4950
㈱上智		939-1351 砺波市千代176-1	0763-33-2085 0763-33-2558
新日本技研㈱	新潟事務所	950-3326 新潟市北区柳原3-11-23	025-384-5050 025-384-5051
㈱新日本コンサルタント		930-0142 富山市吉作910-1	076-436-2111 076-436-3050
相互技術㈱		950-0994 新潟市中央区上所2-11-14	025-283-0150 025-283-0152
㈱大東設計コンサルタント	新潟支店	950-0086 新潟市中央区花園2-1-16 三和ビル	025-246-1320 025-247-3740
大日本コンサルタント㈱	北陸支社	930-0175 富山市願海寺633	076-436-7855 076-436-6030
㈱ダイヤコンサルタント	北陸支店	950-2001 新潟市西区浦山4-1-24	025-234-2110 025-234-2111
舘下コンサルタンツ㈱		939-3553 富山市水橋的場234	076-478-0090 076-478-1190
中央開発㈱	北陸支店	950-0982 新潟市中央区堀之内南3-1-21 北陽ビル	025-283-0211 025-283-0212
㈱中部コンサルタント		933-0866 高岡市清水町3-5-9	0766-21-4536 0766-22-4370

会　社　名	事業所名	住　　所	電話番号 FAX番号
㈱長大	北陸事務所	950-0965 新潟市中央区新光町6-1 興和ビル6F	025-288-0271 025-288-0273
㈱千代田コンサルタント	新潟営業所	950-0911 新潟市中央区笹口1-19-31	025-244-8445 025-249-4776
㈱東京建設コンサルタント	北陸支社	950-0087 新潟市中央区東大通1-2-23 北陸ビル	025-248-3870 025-248-3877
東京コンサルタンツ㈱	新潟支店	950-0912 新潟市中央区南笹口1-1-12 クラスターナインビル8F	025-246-1827 025-246-7463
㈱東北開発コンサルタント	新潟営業所	950-0154 新潟市江南区荻曽根1-5-15	025-382-6106 025-381-3144
㈱東洋設計		920-0016 金沢市諸江町中丁214	076-233-1124 076-233-1224
ナチュラルコンサルタント㈱		921-8066 金沢市矢木2-147	076-246-1170 076-246-4493
㈱ナルサワコンサルタント		950-0964 新潟市中央区網川原1-21-11	025-282-2070 025-284-7993
㈱日本海コンサルタント		921-8042 金沢市泉本町2-126	076-243-8258 076-243-0887
日本工営㈱	新潟支店	950-0962 新潟市中央区出来島1-11-28	025-280-1701 025-283-0898
㈱日本港湾コンサルタント	北陸事務所	950-0087 新潟市中央区東大通2-5-8	025-243-0431 025-241-1806
㈱ニュージェック	北陸支店	950-0911 新潟市中央区笹口2-10-1 WIN21　4F	025-243-4471 025-243-4472
パシフィックコンサルタンツ㈱	北陸支社	950-0917 新潟市中央区天神1-1 プラーカ3　6F	025-247-1341 025-246-1005
㈱パスコ	新潟支店	950-0916 新潟市中央区米山3-1-63	025-243-0051 025-241-8654
㈱プラネット・コンサルタント		920-0353 金沢市赤土町ト95-1	076-268-1206 076-268-1207
北電技術コンサルタント㈱		930-0858 富山市牛島町13-15	076-432-9936 076-432-4280
北陸コンサルタント㈱		939-8213 富山市黒瀬192	076-493-7717 076-493-7720
三井共同建設コンサルタント㈱	北陸事務所	950-0087 新潟市中央区東大通2-5-8 東大通野村ビル	025-244-2503 025-244-2573
㈱村尾技建		950-0948 新潟市中央区女池南2-4-17	025-284-6100 025-283-0368
明治コンサルタント㈱	北陸支店	950-2002 新潟市西区青山1-1-22	025-265-1122 025-265-1126
八千代エンジニヤリング㈱	北陸支店	950-0088 新潟市中央区万代1-1-1 朝日生命新潟ビル	025-243-5454 025-243-5883
(一社) 北陸地域づくり協会		950-0197 新潟市江南区亀田工業団地2-3-4	025-381-1020 025-383-1205
(一財) 新潟県建設技術センター		950-1101 新潟市西区山田2522-18	025-267-4804 025-267-4854

各部会・委員会委員名簿

北陸支部役員			
	役　職	氏　名	所　属
	顧　問	藤巻　俊二	開発技建㈱
支部理事	支部長	寺本　邦一	開発技建㈱
支部理事	副支部長	新家　久司	㈱国土開発センター
〃	副支部長	吉田　攻	大日本コンサルタント㈱
〃	副支部長	中俣　孝	㈱構造技研新潟
〃	運営委員長	高田　一博	開発技建㈱
〃	運営委員	金子　慶一	㈱国土開発センター
〃	運営委員	大平　豊	エヌシーイー㈱
〃	運営委員	涌井　正樹	㈱キタック
〃	運営委員	瀬川　光太郎	㈱建成コンサルタント
〃	運営委員	大川　重雄	㈱建設技術研究所
〃	運営委員	黒木　康生	㈱日本海コンサルタント
支部監事	支部監事	高堂　景寿	相互技術㈱
〃	支部監事	吉楽　雅博	大原技術㈱

独占禁止法の遵守に関する特別部会			
部会等	役　職	氏　名	所　属
	部会長	寺本　邦一	開発技建㈱
	部会員	新家　久司	㈱国土開発センター
	部会員	吉田　攻	大日本コンサルタント㈱
	部会員	中俣　孝	㈱構造技研新潟
	部会員	齋藤　真晴	開発技建㈱
	部会員	金子　慶一	㈱国土開発センター
	部会員	大浦　淳	大日本コンサルタント㈱
	部会員	西潟　常夫	㈱キタック

対外活動部会			
部会等	役　職	氏　名	所　属
	部会長	寺本　邦一	開発技建㈱
	部会員	新家　久司	㈱国土開発センター
	部会員	吉田　攻	大日本コンサルタント㈱
	部会員	中俣　孝	㈱構造技研新潟
	部会員	田中　義明	大日本コンサルタント㈱
	部会員	長森　孝司	㈱日本海コンサルタント
	部会員	矢田　弘	㈱東京建設コンサルタント
	部会員	目黒　信雄	㈱建設技術研究所
	部会員　幹事	坂上　悟	開発技建㈱

新潟地域委員会	委員長	中　俣　　孝	㈱構造技研新潟
〃	委　員	山　岸　　守	開発技建㈱
〃	委　員	舩　谷　喜代文	旭調査設計㈱
〃	委　員	齊　木　　勝	㈱キタック
〃	委　員	大　塚　　明	エヌシーイー㈱
〃	委　員	折　笠　　昇	㈱開発技術コンサルタント
富山地域委員会	委員長	吉　田　　攻	大日本コンサルタント㈱
〃	委　員	田　中　義　明	大日本コンサルタント㈱
〃	委　員	竹　腰　直　治	北建コンサル㈱
〃	委　員	吉　田　　勉	㈱上智
〃	委　員	大　浦　　淳	大日本コンサルタント㈱
〃	委　員	栄　　知　之	北陸コンサルタント㈱
石川地域委員会	委員長	新　家　久　司	㈱国土開発センター
〃	委　員	髙　嶋　智　晴	㈱国土開発センター
〃	委　員	長　森　孝　司	㈱日本海コンサルタント

総括部会			
部会等	役　職	氏　名	所　属
	部会長	青　木　和　之	エヌシーイー㈱
	部会員	佐　藤　　浩	㈱開発技術コンサルタント
	部会員	大　浦　　淳	大日本コンサルタント㈱
	部会員	浦　　正　光	㈱日本海コンサルタント
	部会員	西　潟　常　夫	㈱キタック
	部会員	清　原　宏　二	開発技建㈱
	部会員	高　野　一　博	大原技術㈱

技術部会			
部会等	役　職	氏　名	所　属
	部会長	渡　邊　雅　樹	開発技建㈱
道路委員会	委員長	神　田　和　久	開発技建㈱
〃	委　員	木　村　　浩	エヌシーイー㈱
〃	委　員	首　藤　直　樹	㈱クリエイトセンター
〃	委　員	木　下　裕　康	㈱国土開発センター
〃	委　員	古　池　　豊	大日本コンサルタント㈱
〃	委　員	藤　本　勇　一	㈱東洋設計
〃	委　員	池　渕　　稔	東京コンサルタンツ㈱
橋梁委員会	委員長	渡　辺　正　三	大日本コンサルタント㈱
〃	委　員	近　藤　　治	開発技建㈱
〃	委　員	渡　邉　　敦	エヌシーイー㈱
〃	委　員	大　竹　　滋	㈱キタック
〃	委　員	南　雲　　浩	㈱構造技研新潟
〃	委　員	笹　谷　輝　彦	㈱国土開発センター
〃	委　員	小　原　隆　一	㈱東洋設計
〃	委　員	寺　田　直　樹	㈱開発技術コンサルタント

河川及び砂防委員会	委員長	涌井　正樹	㈱キタック
〃	委　員	永矢　貴之	㈱建設技術研究所
〃	委　員	亀田　満	㈱国土開発センター
〃	委　員	佐藤　裕司	五大開発㈱
〃	委　員	岡田　和美	大日本コンサルタント㈱
〃	委　員	須田　玲	エヌシーイー㈱
〃	委　員	木村　幸雄	開発技建㈱
〃	委　員	金子　幸生	相互技術㈱
トンネル委員会	委員長	今度　充之	東京コンサルタンツ㈱
〃	委　員	須貝　浩	エヌシーイー㈱
〃	委　員	麻田　正弘	アルスコンサルタンツ㈱
〃	委　員	平野　吉彦	㈱キタック
〃	委　員	雪田　真吾	サンコーコンサルタント㈱
〃	委　員	辻本　勝彦	㈱国土開発センター
都市計画委員会	委員長	小見　直樹	エヌシーイー㈱
〃	委　員	佐藤　吉一	開発技建㈱
〃	委　員	荘司　洋文	㈱キタック
〃	委　員	新田川　貴之	㈱国土開発センター
〃	委　員	酒井　信次	大日本コンサルタント㈱
〃	委　員	埒　正浩	㈱日本海コンサルタント
建設環境委員会	委員長	佐藤　朗	開発技建㈱
〃	委　員	稲葉　弘之	アルスコンサルタンツ㈱
〃	委　員	若尾　明弘	エヌシーイー㈱
〃	委　員	高橋　靖	大日本コンサルタント㈱
〃	委　員	西　暢人	㈱日本海コンサルタント
〃	委　員	藤本　隆則	㈱キタック
〃	委　員	平野　博範	㈱国土開発センター
品質向上委員会	委員長	真嶋　利寿	エヌシーイー㈱
〃	委　員	伊藤　信哉	開発技建㈱
〃	委　員	森　将恒	㈱キタック
〃	委　員	西村　治	大日本コンサルタント㈱
〃	委　員	若林　修	東京コンサルタンツ㈱
〃	委　員	野村　尚樹	㈱日本海コンサルタント
〃	委　員	山森　茂明	㈱クリエイトセンター
〃	委　員	高橋　辰夫	㈱開発技術コンサルタント
情報委員会	委員長	樋浦　慎	開発技建㈱
〃	委　員	内山　徹	エヌシーイー㈱
〃	委　員	島　健	㈱キタック
〃	委　員	大関　一成	㈱クリエイトセンター
〃	委　員	兼政　孝臣	㈱国土開発センター
〃	委　員	渡辺　浩二	大日本コンサルタント㈱

若手技術者ワーキンググループ	リーダー	竹　内　　聡	開発技建㈱
〃	サブリーダー	片　岸　将　広	㈱日本海コンサルタント
〃	委　員	七郎丸　一　孝	㈱国土開発センター
〃	委　員	伊　藤　裕　章	大日本コンサルタント㈱
〃	委　員	松　尾　内　助	㈱キタック
〃	委　員	新　郷　恭　弘	エヌシーイー㈱
〃	委　員	山　田　知　広	㈱建成コンサルタント
〃	委　員	榊　原　　稔	㈱建設技術研究所
〃	委　員	福　崎　正　和	㈱構造技研新潟
〃	委　員	青　木　隆　幸	相互技術㈱
〃	委　員	佐　藤　洋　子	㈱構造技研新潟
〃	委　員	佐　藤　　恵	相互技術㈱

広　報　部　会			
部　会　等	役　職	氏　名	所　属
	部会長	佐々木　大　介	㈱ナルサワコンサルタント
広報委員会	委員長	髙　橋　邦　夫	開発技建㈱
〃	委　員	浜　辺　良　彦	相互技術㈱
〃	委　員	泉　　英　樹	大日本コンサルタント㈱
〃	委　員	瀧　上　　彰	アルスコンサルタンツ㈱
〃	委　員	芳　野　夏　輔	㈱建設技術研究所
〃	委　員	新　川　行　男	㈱国土開発センター
〃	委　員	梶　原　　亘	パシフイックコンサルタンツ㈱
〃	委　員	大　蔵　欣　司	㈱建成コンサルタント
〃	委　員	高　橋　宏　明	開発技建㈱
〃	委　員	今　野　　健	エヌシーイー㈱
会誌編集委員会	委員長	須　藤　勝　彦	㈱国土開発センター
〃	委　員	猪　俣　孝　之	大日本コンサルタント㈱
〃	委　員	齋　藤　浩　幸	㈱キタック
〃	委　員	熊　倉　孝　次	㈱クリエイトセンター

災　害　対　策　部　会			
部　会　等	役　職	氏　名	所　属
	部会長	寺　本　邦　一	開発技建㈱
新潟現地対策本部	本部長	寺　本　邦　一	開発技建㈱
〃	副本部長	中　俣　　孝	㈱構造技研新潟
〃	技術総括指揮者	髙　橋　邦　夫	開発技建㈱
〃	副責任者	木　村　幸　雄	開発技建㈱
富山現地対策本部	本部長	寺　本　邦　一	開発技建㈱
〃	副本部長	吉　田　　攻	大日本コンサルタント㈱
〃	技術総括指揮者	渡　辺　正　三	大日本コンサルタント㈱
〃	副責任者	林　　達　夫	大日本コンサルタント㈱
石川現地対策本部	本部長	寺　本　邦　一	開発技建㈱
〃	副本部長	新　家　久　司	㈱国土開発センター
〃	技術総括指揮者	笹　谷　輝　彦	㈱国土開発センター
〃	副責任者	西　川　幸　成	㈱国土開発センター

編集後記

《表紙写真を撮り終えて…》

今回の表紙の写真は、ご存知長野県小谷村八方池から眺める白馬三山である。左から白馬鑓ヶ岳（はくばやりがたけ 2,903m）、杓子岳（しゃくしだけ 2,812m）、そして白馬岳（しろうまだけ 2,932m）である。

表紙写真のストックもなくなり、気にはなっていたのだが、ひょんなきっかけで表紙写真を撮りに出かけることになった。きっかけは県境近くの現場でのこと。昼休みに近くの道の駅小谷までトイレに行った時に「栂池（つがいけ）高原ナイトゴンドラツアー」のチラシに目がとまり、久しぶりに（奥さん孝行もかねて）行ってみるかとなった。

栂池から眺める星空には生憎雲がかかり見えなかったが、しかし当日の八方尾根は快晴。八方ゴンドラリフトからクワッドリフトに乗り継いで行く間に眺める大パノラマは絶景。長野オリンピック、スタート地点となった「鎌池（1,680m）」と白馬三山の頂上をまずパチリ。山の天気は当てにならないので、いいなと思ったらこまめに写真を撮りまくる。八方池山荘（1,830m）からやっとトレッキングとなるが、10分も歩かないうちに座骨神経痛のおしりが痛くなってきた。休んでは写真を撮り、そんな繰り返しであった。白馬三山が段々目の前に迫ってきてワクワクしてくるけど、やっぱりおしりは痛いわでようやくたどり着いたのが、この八方池（2,060m）から見る白馬三山。

この景色をバックにアツアツのカップラーメンとおにぎりをほおばって、久しぶりの爽快感あふれる一日となった。「来年用」にもう一度行ってみるかなと思案中である。

猪俣孝之

発　行 ／ 一般社団法人　建設コンサルタンツ協会　北陸支部
〒950-0965 新潟市中央区新光町6番地1 興和ビル7階
TEL 025-282-3370　FAX 025-282-3371

会誌編集委員会

委員長 ／ 須藤　勝彦
委　員 ／ 齋藤　浩幸　　猪俣　孝之　　熊倉　孝次

発　行

一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 北陸支部

〒950-0965 新潟市中央区新光町6番地1 興和ビル7階

TEL 025-282-3370　FAX 025-282-3371

http://www.hr-jcca.jp/